

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書の訂正届出書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2024年5月27日提出
【発行者名】	フィデリティ投信株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 デレック・ヤング
【本店の所在の場所】	東京都港区六本木七丁目7番7号
【事務連絡者氏名】	照沼 加奈子
【電話番号】	03 - 4560 - 6000
【届出の対象とした募集 （売出）内国投資信託受益 証券に係るファンドの名称】	フィデリティ・日本株式・ファンド（ファンドラップ専用） フィデリティ・欧州株式・ファンド（ファンドラップ専用） フィデリティ・北米株式・ファンド（ファンドラップ専用） フィデリティ・英国株式・ファンド（ファンドラップ専用） フィデリティ・世界総合債券・ファンド（ファンドラップ専用） フィデリティ・世界ハイ・イールド債券・ファンド（ファンドラップ専用） フィデリティ・アジア・パシフィック株式・ファンド（ファンドラップ専用） フィデリティ・オルタナティブ株式・ファンド（ファンドラップ専用） フィデリティ・世界新興国株式・ファンド（ファンドラップ専用） フィデリティ・世界リート・ファンド（ファンドラップ専用）
【届出の対象とした募集 （売出）内国投資信託受益 証券の金額】	各ファンドにつき2兆円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

本日、半期報告書を提出いたしましたので、2023年11月28日付けをもって提出した有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）の関係情報を新たな情報により訂正するとともに、その他の情報について訂正すべき事項がありますのでこれを訂正するため、本訂正届出書を提出するものです。

2【訂正の内容】

_____の部分は訂正部分を示します。

第一部【証券情報】

（7）【申込期間】

<訂正前>

継続申込期間：2023年11月29日から2024年11月27日まで

継続申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されま
す。

<訂正後>

継続申込期間：2023年11月29日から2024年11月27日まで^{（注）}

（注）ファンドは、下記「第二部 ファンド情報 第2 管理及び運営 3 資産管理等の
概要 （5）その他 （a）信託の終了 <信託契約の解約>」の記載に従って、2024
年8月8日付で信託の終了（繰上償還）を予定しております。繰上償還が確定した場
合、購入の申込期間は2024年7月19日までとなります。詳しくは、下記「（12）その
他 信託の終了（繰上償還）」をご参照ください。

（12）【その他】

<訂正前>

（略）

振替受益権について

ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、上記「（11）振替機関に関する事項」に記載の振替機関の振替業に係る業務規程等の規則に従って取扱われるものとします。ファンドの分配金、償還金、換金代金は、社振法および上記「（11）振替機関に関する事項」に記載の振替機関の業務規程その他の規則に従って支払われます。

<訂正後>

（略）

振替受益権について

ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、上記「（11）振替機関に関する事項」に記載の振替機関の振替業に係る業務規程等の規則に従って取扱われるものとします。ファンドの分配金、償還金、換金代金は、社振法および上記「（11）振替機関に関する事項」に記載の振替機関の業務規程その他の規則に従って支払われます。

信託の終了（繰上償還）

各ファンドは、2024年8月8日付で信託の終了（繰上償還）を予定しており、2024年7月10
日に「書面による決議」（以下、書面決議）を行ないますのでお知らせいたします。

書面決議は、2024年5月29日時点の各ファンドの受益者のうち3分の2以上の賛成により可
決されます。当該議案が可決された場合、2024年7月16日に投資信託契約の解約の届出を行
ない、2024年8月8日に償還となります。ただし、否決された場合、繰上償還は行ないませ
ん。書面決議の結果については、フィデリティ投信株式会社のホームページ
（<https://www.fidelity.co.jp/>）にてご案内いたします。なお、2024年5月29日以降に取得
申込みを行ない各ファンドの受益者となる方の受益権については当該手続きを行なう権利が
ございませんのでご注意ください。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

（1）【ファンドの目的及び基本的性格】

<訂正前>

（略）

ファンドの特色

（略）

（j）フィデリティ・世界リート・ファンド（ファンドラップ専用）

（略）

マザーファンドの運用にあたっては、FILインベストメンツ・インターナショナルに、運用の指図に関する権限を委託します。

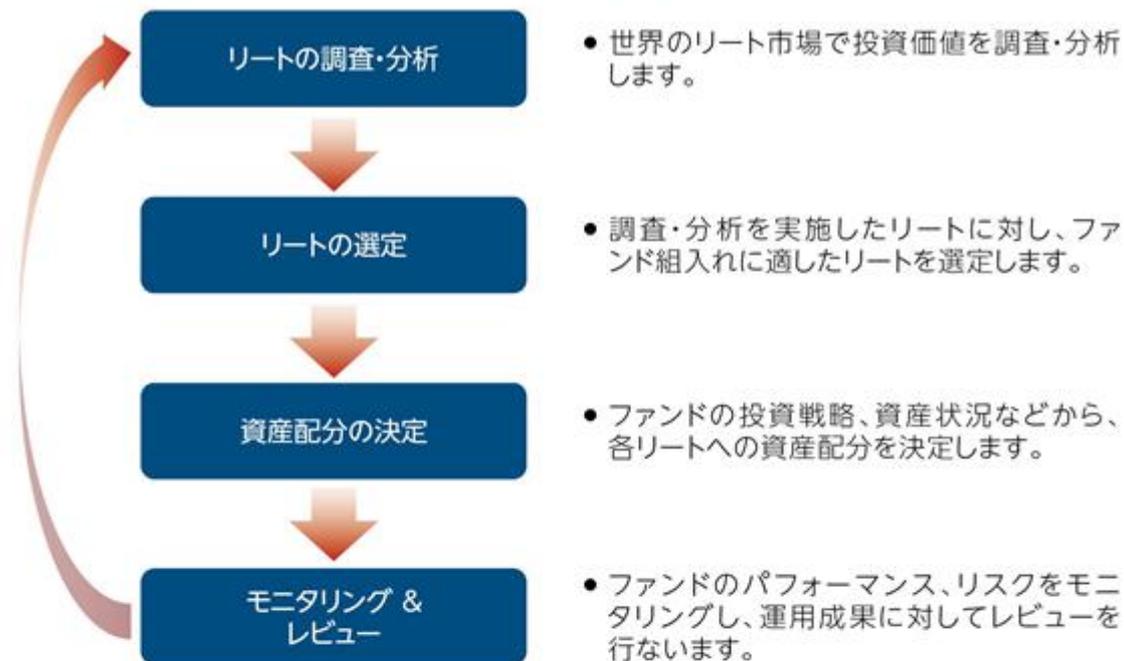
（略）

ファンドは「フィデリティ・グローバル・リート・マザーファンド」を通じて投資を行いません。上記はファンドの主たる投資対象であるマザーファンドの特色および投資方針を含みます。

（参考）ファンドの実質的運用プロセス

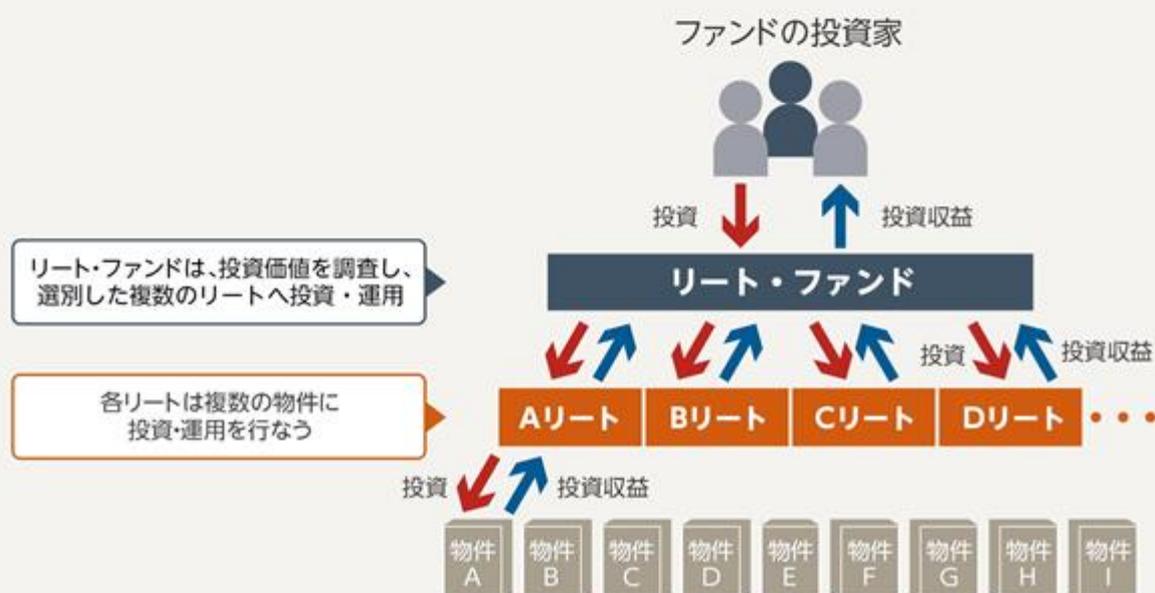
（略）

フィデリティ・世界リート・ファンド(ファンドラップ専用)



『リート(不動産投資信託)』とは?

- リート(Real Estate Investment Trust)とは、多数の投資家の資金を集めて、オフィスビル、商業施設、住宅などのさまざまな形態の不動産を取得、管理、運用することを目的とする不動産投資信託のことです。
- 1960年に米国で初めて導入されました。リートは、株式、社債、借入れなどのさまざまな資金調達が可能です。



< 訂正後 >

（略）

ファンドの特色

（略）

(j) フィデリティ・世界リート・ファンド（ファンドラップ専用）

（略）

マザーファンドの運用にあたっては、FILインベストメンツ・インターナショナルおよびFILインベストメント・マネジメント（香港）・リミテッド^(注)に、運用の指図に関する権限を委託します。

（略）

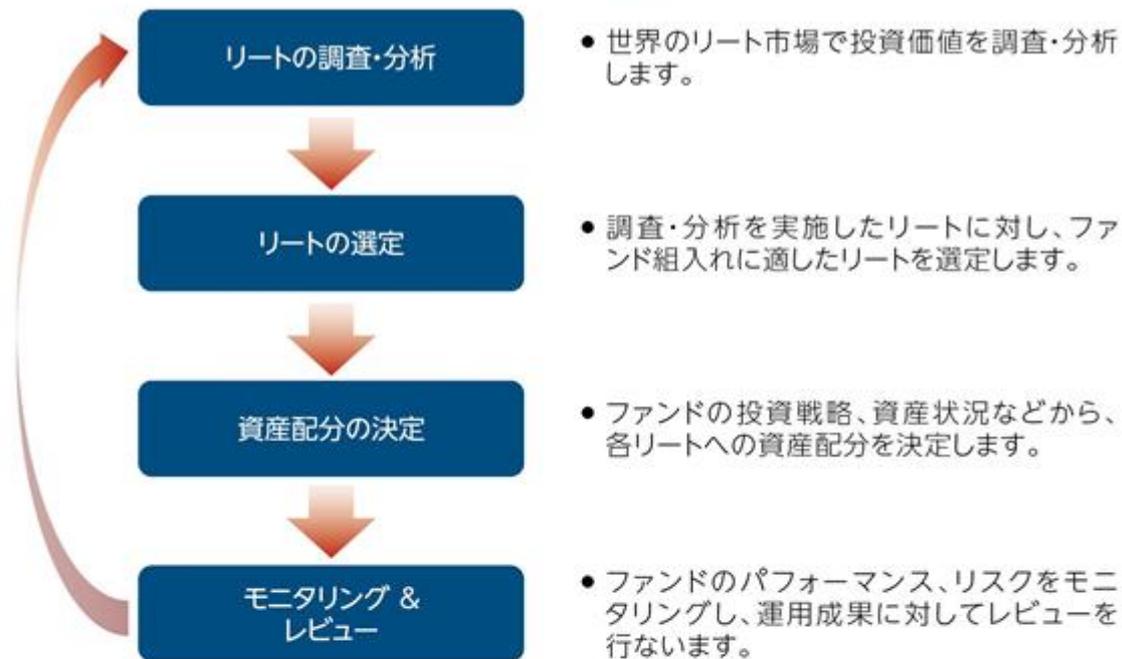
ファンドは「フィデリティ・グローバル・リート・マザーファンド」を通じて投資を行いません。上記はファンドの主たる投資対象であるマザーファンドの特色および投資方針を含みます。

(注) 2024年3月31日付けで、マザーファンドにおける運用の指図に関する権限の委託先に「FILインベストメント・マネジメント（香港）・リミテッド」を追加いたしました。
なお、当該変更は運用担当者の追加によるもので、当該マザーファンドおよびファンドに係る運用方針や運用スタイル等に変更ありません。

（参考）ファンドの実質的運用プロセス

（略）

フィデリティ・世界リート・ファンド(ファンドラップ専用)



ご参考

一般的なリート(不動産投資信託)のしくみ

- リート(Real Estate Investment Trust)とは、多数の投資家の資金を集めて、オフィスビル、商業施設、住宅などのさまざまな形態の不動産を取得、管理、運用することを目的とする不動産投資信託のことです。
- 1960年に米国で初めて導入されました。リートは、株式、社債、借入れなどのさまざまな資金調達が可能です。

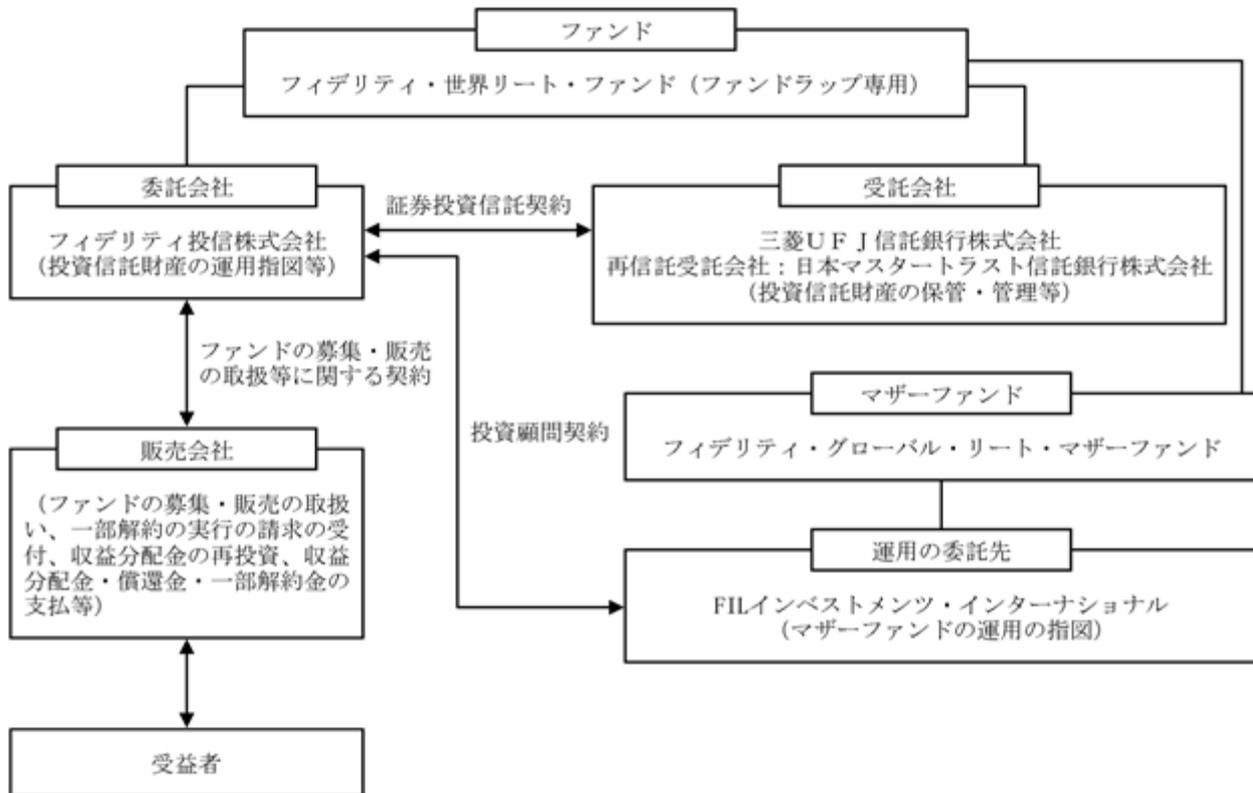


(3) 【ファンドの仕組み】

< 訂正前 >

ファンドの仕組み

(略)



委託会社およびファンドの関係法人

(略)

(d) 運用の委託先：

フィデリティ・グローバル・リート・マザーファンドの運用にあたっては、FILインベストメンツ・インターナショナルに、運用の指図に関する権限を委託します。

名称	業務の内容
FILインベストメンツ・インターナショナル (所在地：英国)	委託会社より運用の指図に関する権限の委託を受け、マザーファンドの運用の指図を行ないます。

(略)

(参考)

FILインベストメンツ・インターナショナルおよびフィデリティ投信株式会社は、独立系資産運用グループのフィデリティ・インターナショナルの一員です。

(略)

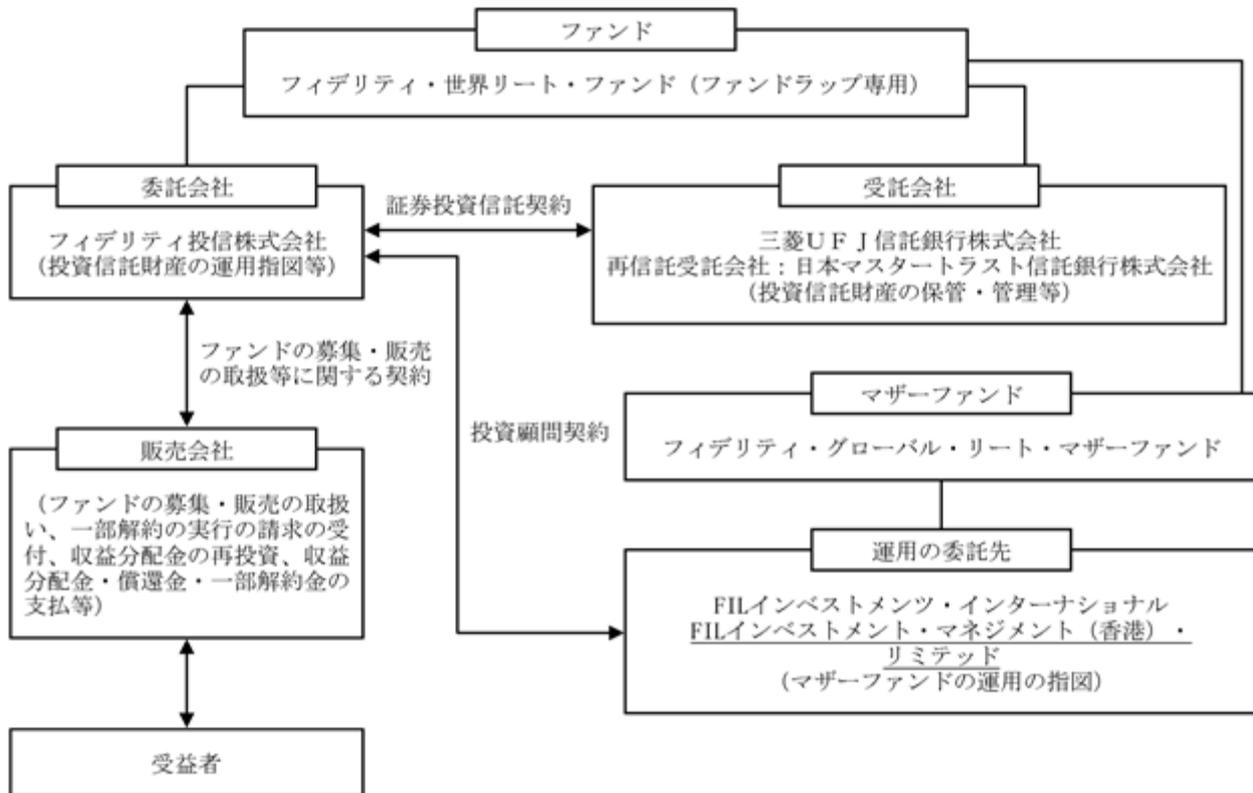
委託会社の概況（2023年9月末日現在）

(略)

<訂正後>

ファンドの仕組み

(略)



委託会社およびファンドの関係法人

(略)

(d) 運用の委託先：

フィデリティ・グローバル・リート・マザーファンドの運用にあたっては、次の委託先に、運用の指図に関する権限を委託します。

名称	業務の内容
FILインベストメンツ・インターナショナル (所在地：英国)	委託会社より運用の指図に関する権限の委託を受け、マザーファンドの運用の指図を行ないます。
FILインベストメント・マネジメント(香港)・リミテッド	

(略)

(参考)

FILインベストメンツ・インターナショナル、FILインベストメント・マネジメント(香港)・リミテッドおよびフィデリティ投信株式会社は、独立系資産運用グループのフィデリティ・インターナショナルの一員です。

(略)

委託会社の概況（2024年3月末日現在）

(略)

2【投資方針】

（2）【投資対象】

<訂正前>

（略）

主たる投資対象ファンドの概要（2023年9月末日現在）

（略）

<訂正後>

（略）

主たる投資対象ファンドの概要（2024年3月末日現在）

（略）

（3）【運用体制】

<訂正前>

（略）

「フィデリティ・世界リート・ファンド（ファンドラップ専用）」
ファンドの主要投資対象であるマザーファンドの運用にあたっては、FILインベストメンツ・
インターナショナルに運用の指図に関する権限を委託します。

（略）

<訂正後>

（略）

「フィデリティ・世界リート・ファンド（ファンドラップ専用）」
ファンドの主要投資対象であるマザーファンドの運用にあたっては、FILインベストメンツ・
インターナショナルおよびFILインベストメント・マネジメント（香港）・リミテッドに運用の
指図に関する権限を委託します。

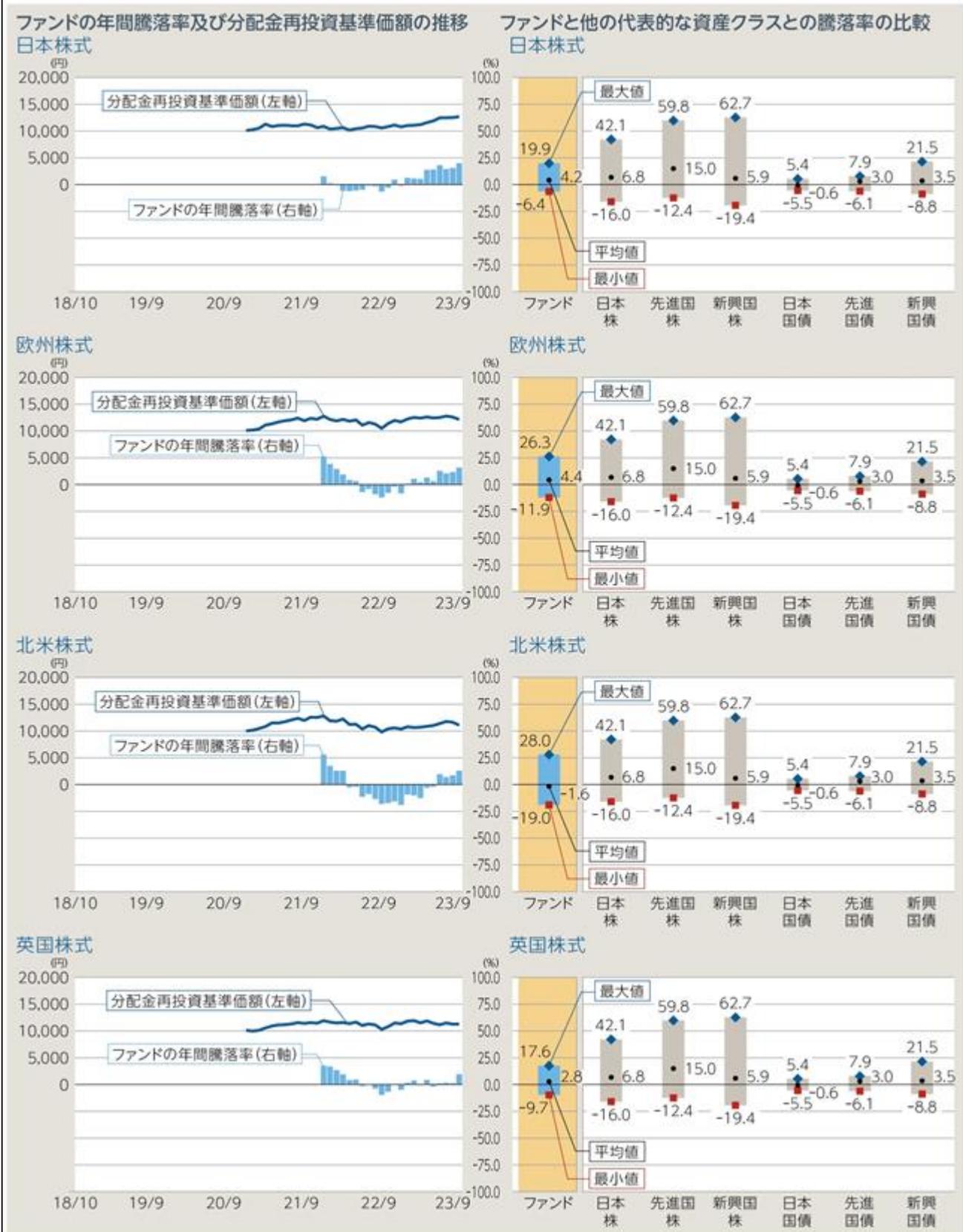
（略）

3【投資リスク】

<訂正前>

(略)

以下は、ファンドのリスクを定量的に把握・比較できるように、参考情報として掲載しています。



ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移 世界総合債券



ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較 世界総合債券



世界ハイ・イールド債券



世界ハイ・イールド債券



アジア・パシフィック株式



アジア・パシフィック株式



オルタナティブ株式



オルタナティブ株式



ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移 世界新興国株式



ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較 世界新興国株式



世界リート



世界リート



※「ファンドの年間騰落率」は、ファンドが2020年12月15日に設定されたため、2021年12月～2023年9月の期間の各月末における直近1年間の騰落率を表示している。

※「ファンドの年間騰落率」は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率であり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。なお、当騰落率は目盛最大値に比べ値が小さいためにグラフが見えない場合があります。

※「分配金再投資基準価額」は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額であり、実際の基準価額と異なる場合があります。

※ファンドは2020年12月15日に設定されたため2021年12月～2023年9月の期間、他の代表的な資産クラスについては2018年10月～2023年9月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示しております。当グラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

※全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

※ファンドは税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

代表的な資産クラスの指数

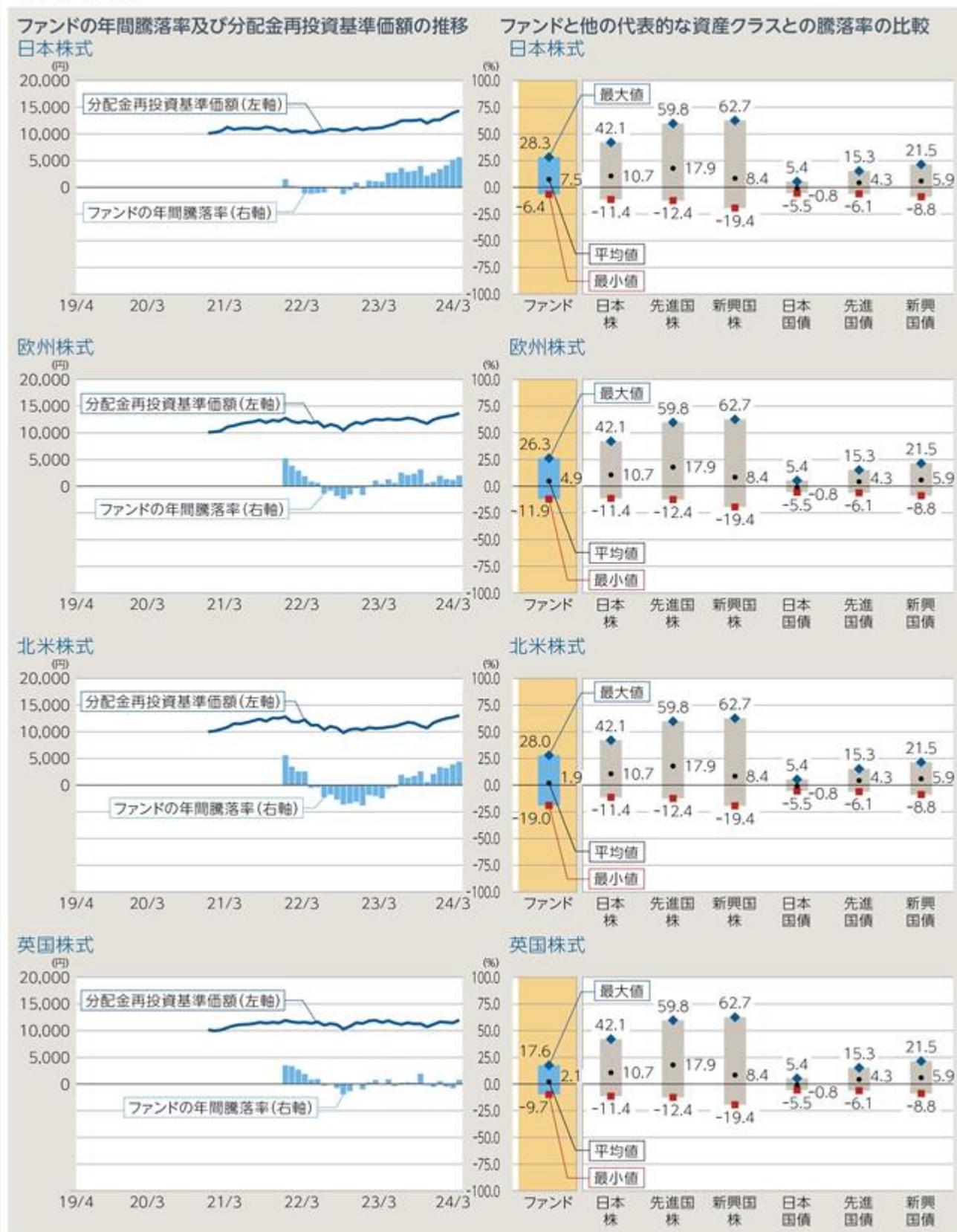
日本株 TOPIX (配当込)	東証株価指数 (TOPIX) (以下「TOPIX」という。)の指数値及びTOPIXに係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社 (以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。
先進国株 MSCI コクサイ・インデックス (税引前配当金込/円ベース)	MSCI コクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した、日本を除く先進国の株式市場のパフォーマンス測定を目的とする浮動株調整済み時価総額加重指数です。著作権、およびその他知的所有権はMSCI Inc.に帰属しております。
新興国株 MSCI エマージング・マーケット・インデックス (税引前配当金込/円ベース)	MSCI エマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した、エマージング諸国の株式市場のパフォーマンス測定を目的とする浮動株調整済み時価総額加重指数です。著作権、およびその他知的所有権はMSCI Inc.に帰属しております。
日本国債 NOMURA-BPI 国債	NOMURA-BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する、国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI 国債の知的財産権およびその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、NOMURA-BPI 国債の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当ファンドの設定の可否、運用成果等並びに当ファンド及びNOMURA-BPI 国債に関連して行われる当社のサービス提供等の行為に関して一切責任を負いません。
先進国債 FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)	FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
新興国債 J.P.モルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド (円ベース)	この情報は信頼性があると信じるに足る情報源から得られたものですが、J.P.モルガンはその完全性または正確性を保証するものではありません。このインデックスは使用許諾を得て使用しています。J.P.モルガンによる書面による事前の承諾なくこのインデックスを複製、使用、頒布することは禁じられています。Copyright © 2022 J.P. Morgan Chase & Co. 無断複製・転載を禁じます。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、指数提供元にて円換算しております。

< 訂正後 >

(略)

以下は、ファンドのリスクを定量的に把握・比較できるように、参考情報として掲載しています。



ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移 世界総合債券



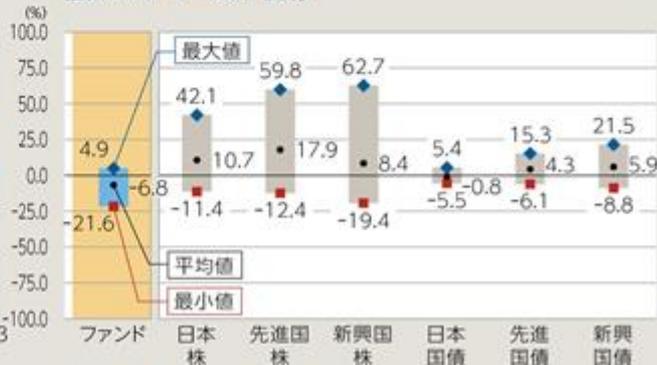
ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較 世界総合債券



世界ハイ・イールド債券



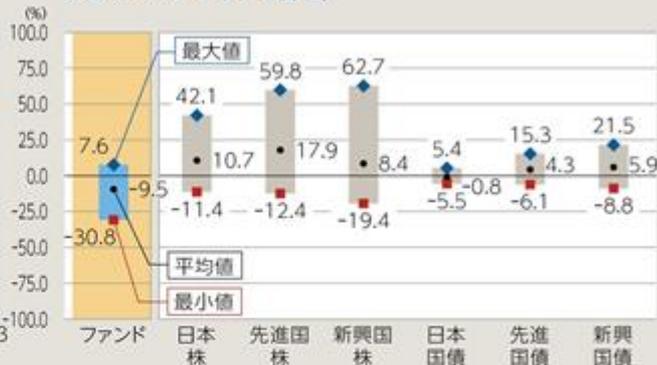
世界ハイ・イールド債券



アジア・パシフィック株式



アジア・パシフィック株式



オルタナティブ株式



オルタナティブ株式



ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移 世界新興国株式



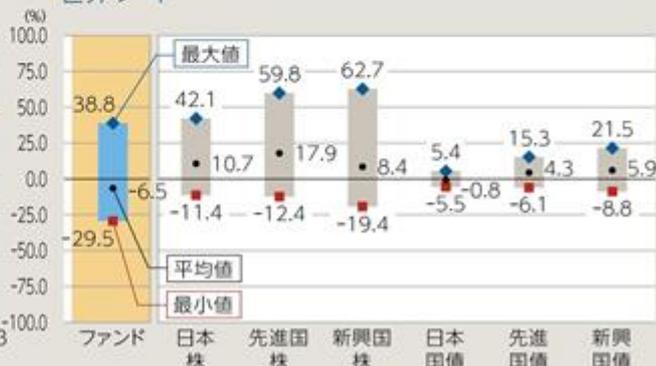
ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較 世界新興国株式



世界リート



世界リート



※「ファンドの年間騰落率」は、ファンドが2020年12月15日に設定されたため、2021年12月～2024年3月の期間の各月末における直近1年間の騰落率を表示しています。

※「ファンドの年間騰落率」は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率であり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。なお、当騰落率は目盛最大値に比べ値が小さいためにグラフが見えない場合があります。

※「分配金再投資基準価額」は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額であり、実際の基準価額と異なる場合があります。

※ファンドは2020年12月15日に設定されたため2021年12月～2024年3月の期間、他の代表的な資産クラスについては2019年4月～2024年3月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示しております。当グラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

※全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

※ファンドは税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

代表的な資産クラスの指数

日本株 TOPIX (配当込)	東証株価指数 (TOPIX) (以下「TOPIX」という。)の指数値及びTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社 (以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。
先進国株 MSCI コクサイ・インデックス (税引前配当金込/円ベース)	MSCI コクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した、日本を除く先進国の株式市場のパフォーマンス測定を目的とする浮動株調整済み時価総額加重指数です。著作権、およびその他知的所有権はMSCI Inc.に帰属しております。
新興国株 MSCI エマージング・ マーケット・インデックス (税引前配当金込/円ベース)	MSCI エマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した、エマージング諸国の株式市場のパフォーマンス測定を目的とする浮動株調整済み時価総額加重指数です。著作権、およびその他知的所有権はMSCI Inc.に帰属しております。
日本国債 NOMURA-BPI 国債	NOMURA-BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する、国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI 国債の知的財産権およびその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、NOMURA-BPI 国債の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当ファンドの設定の可否、運用成果等並びに当ファンド及びNOMURA-BPI 国債に関連して行われる当社のサービス提供等の行為に関して一切責任を負いません。
先進国債 FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)	FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
新興国債 J.P.モルガンGBI-EMグローバル・ ダイバーシファイド (円ベース)	この情報は信頼性があると信じるに足る情報源から得られたものですが、J.P.モルガンはその完全性または正確性を保証するものではありません。このインデックスは使用許諾を得て使用しています。J.P.モルガンによる書面による事前の承諾なくこのインデックスを複製、使用、頒布することは禁じられています。Copyright © 2022 J.P. Morgan Chase & Co. 無断複製・転載を禁じます。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、指数提供元にて円換算しております。

4【手数料等及び税金】

(3)【信託報酬等】

<訂正前>

- 「フィデリティ・日本株式・ファンド(ファンドラップ専用)」
- 「フィデリティ・欧州株式・ファンド(ファンドラップ専用)」
- 「フィデリティ・北米株式・ファンド(ファンドラップ専用)」
- 「フィデリティ・英国株式・ファンド(ファンドラップ専用)」
- 「フィデリティ・世界総合債券・ファンド(ファンドラップ専用)」
- 「フィデリティ・世界ハイ・イールド債券・ファンド(ファンドラップ専用)」
- 「フィデリティ・アジア・パシフィック株式・ファンド(ファンドラップ専用)」
- 「フィデリティ・オルタナティブ株式・ファンド(ファンドラップ専用)」
- 「フィデリティ・世界新興国株式・ファンド(ファンドラップ専用)」

(略)

委託会社および販売会社に対する信託報酬は、ファンドから委託会社に対して支弁されます。信託報酬の販売会社への配分は、販売会社が行なうファンドの募集・販売の取扱い等に関する業務に対する代行手数料であり、ファンドから委託会社に支弁された後、委託会社より販売会社に対して支払われます。受託会社の報酬はファンドから受託会社に対して支弁されます。

(略)

ただし、この実質的な信託報酬等は、2023年9月末日現在の投資対象ファンドに基づくものであり、投資対象ファンドの変更等により将来的に変動することがあります。

(略)

<訂正後>

- 「フィデリティ・日本株式・ファンド(ファンドラップ専用)」
- 「フィデリティ・欧州株式・ファンド(ファンドラップ専用)」
- 「フィデリティ・北米株式・ファンド(ファンドラップ専用)」
- 「フィデリティ・英国株式・ファンド(ファンドラップ専用)」
- 「フィデリティ・世界総合債券・ファンド(ファンドラップ専用)」
- 「フィデリティ・世界ハイ・イールド債券・ファンド(ファンドラップ専用)」
- 「フィデリティ・アジア・パシフィック株式・ファンド(ファンドラップ専用)」
- 「フィデリティ・オルタナティブ株式・ファンド(ファンドラップ専用)」
- 「フィデリティ・世界新興国株式・ファンド(ファンドラップ専用)」

(略)

委託会社および販売会社に対する信託報酬は、ファンドから委託会社に対して支弁されます。信託報酬の販売会社への配分は、販売会社が行なうファンドの募集・販売の取扱い等に関する業務に対する代行手数料であり、ファンドから委託会社に支弁された後、委託会社より販売会社に対して支払われます。受託会社の報酬はファンドから受託会社に対して支弁されます。

(略)

ただし、この実質的な信託報酬等は、2024年3月末日現在の投資対象ファンドに基づくものであり、投資対象ファンドの変更等により将来的に変動することがあります。

* 投資対象ファンドの運用管理費用以外の費用が発生する場合があります。

(略)

(4)【その他の手数料等】

<訂正前>

(略)

上記(1)から(4)に係る手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので表示することができません。

<訂正後>

(略)

上記(1)から(4)に係る手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので表示することができません。

運用・管理にかかる費用の総額について、詳しくは、後掲の「(参考情報)ファンドの総経費率」をご参照ください。

(5)【課税上の取扱い】

<訂正前>

(略)

上記「(5)課税上の取扱い」の記載は、2023年9月末日現在のものですので、税法が改正された場合等には、内容が変更となる場合があります。

上記「(5)課税上の取扱い」の記載は、法的助言または税務上の助言をなすものではありません。ファンドへの投資を検討される方は、ファンドの購入、保有、換金等がもたらす税務上の意味合いにつき専門家と相談されることをお勧めします。

<訂正後>

(略)

上記「(5)課税上の取扱い」の記載は、2024年3月末日現在のものですので、税法が改正された場合等には、内容が変更となる場合があります。

上記「(5)課税上の取扱い」の記載は、法的助言または税務上の助言をなすものではありません。ファンドへの投資を検討される方は、ファンドの購入、保有、換金等がもたらす税務上の意味合いにつき専門家と相談されることをお勧めします。

(参考情報)ファンドの総経費率

	総経費率 (①+②)	運用管理費用の 比率①	その他費用の 比率②
フィデリティ・日本株式・ ファンド(ファンドラップ専用)	1.20%	0.41%	0.80%
フィデリティ・欧州株式・ ファンド(ファンドラップ専用)	1.23%	0.41%	0.83%
フィデリティ・北米株式・ ファンド(ファンドラップ専用)	1.06%	0.41%	0.65%
フィデリティ・英国株式・ ファンド(ファンドラップ専用)	1.24%	0.41%	0.83%
フィデリティ・世界総合債券・ ファンド(ファンドラップ専用)	1.03%	0.41%	0.62%
フィデリティ・世界ハイ・イールド債券・ ファンド(ファンドラップ専用)	1.17%	0.41%	0.77%
フィデリティ・アジア・パシフィック株式・ ファンド(ファンドラップ専用)	1.36%	0.41%	0.95%
フィデリティ・オルタナティブ株式・ ファンド(ファンドラップ専用)	0.89%	0.41%	0.48%
フィデリティ・世界新興国株式・ ファンド(ファンドラップ専用)	1.32%	0.41%	0.92%

(比率は年率、表示桁数未満を四捨五入)

※対象期間は2022年8月31日～2023年8月30日です。

※対象期間の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、購入時手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除きます。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除しています。

※その他費用には、投資先ファンドにかかる費用が含まれています。

※投資先ファンドにおいて、上記以外に含まれていない費用は認識していません。

※投資先ファンドの費用について、計上された期間が異なる場合があります。

※これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

※詳細につきましては、対象期間の運用報告書(全体版)をご覧ください。

	総経費率 (①+②)	運用管理費用の 比率①	その他費用の 比率②
フィデリティ・世界リート・ ファンド(ファンドラップ専用)	0.95%	0.83%	0.12%

(比率は年率、表示桁数未満を四捨五入)

※対象期間は2022年8月31日～2023年8月30日です。

※対象期間の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、購入時手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除きます。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除しています。

※詳細につきましては、対象期間の運用報告書(全体版)をご覧ください。

5【運用状況】

原届出書「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 5 運用状況」につきましては、以下の記載内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

【フィデリティ・日本株式・ファンド（ファンドラップ専用）】

（1）【投資状況】

（2024年3月29日現在）

資産の種類	国・地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
投資証券	アイルランド	157,209,850	99.48
	ルクセンブルグ	139,156	0.09
	小計	157,349,006	99.56
預金・その他の資産（負債控除後）	-	690,540	0.44
合計（純資産総額）		158,039,546	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（2）【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

（2024年3月29日現在）

順位	銘柄名	通貨 地域	種類	数量	簿価単価(円) 簿価金額(円)	評価単価(円) 時価金額(円)	投資 比率 (%)
1	FCCF JAPAN EQUITY G- ACC-JPY	日本・円 アイルランド	投資証券	9,660.19	14,262.08 137,774,422	16,274.00 157,209,850	99.48
2	FF-US DOLLAR CASH FUND Y ACC USD	アメリカ・ドル ルクセンブルグ	投資証券	78.83	1,716.42 135,306	1,765.27 139,156	0.09

種類別投資比率

（2024年3月29日現在）

種類	国内 / 外国	投資比率 (%)
投資証券	外国	99.56
合計（対純資産総額比）		99.56

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

2024年3月末日および同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次のとおりです。

期	年月日	純資産総額 (百万円) (分配落)	純資産総額 (百万円) (分配付)	1口当たり純資産額 (円) (分配落)	1口当たり純資産額 (円) (分配付)
1期	(2021年8月30日)	74	74	1.0968	1.0968
2期	(2022年8月30日)	124	124	1.0838	1.0838
3期	(2023年8月30日)	168	168	1.2520	1.2520
	2023年3月末日	159	-	1.1191	-
	2023年4月末日	167	-	1.1583	-
	2023年5月末日	164	-	1.1887	-
	2023年6月末日	168	-	1.2474	-
	2023年7月末日	168	-	1.2490	-
	2023年8月末日	168	-	1.2513	-
	2023年9月末日	169	-	1.2681	-
	2023年10月末日	208	-	1.2016	-
	2023年11月末日	229	-	1.2635	-
	2023年12月末日	149	-	1.2637	-
	2024年1月末日	138	-	1.3320	-
	2024年2月末日	155	-	1.3937	-
	2024年3月末日	158	-	1.4357	-

【分配の推移】

期	1口当たりの分配金(円)
第1期	0.0000
第2期	0.0000
第3期	0.0000

【収益率の推移】

期	収益率(%)
第1期	9.7
第2期	1.2
第3期	15.5
第4期中 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日	11.3

(注) 収益率とは、計算期間末の基準価額（分配付）から前計算期間末の基準価額（分配落）を控除した額を直前の計算期間末の基準価額（分配落）で除して得た数に100を乗じて得た数字です。なお、小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁目まで表示しております。

(4) 【設定及び解約の実績】

下記計算期間中の設定および解約の実績ならびに当該計算期間末の発行済数量は次のとおりです。

期	設定数量 (口)	解約数量 (口)	発行済数量 (口)
第1期	68,036,787	303,464	67,733,323
第2期	173,891,671	126,988,082	114,636,912
第3期	62,950,363	42,879,696	134,707,579
第4期中 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日	88,417,111	111,701,001	111,423,689

(注) 本邦外における設定及び解約はありません。

【フィデリティ・欧州株式・ファンド（ファンドラップ専用）】

（１）【投資状況】

（2024年3月29日現在）

資産の種類	国・地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
投資証券	アイルランド	120,778,033	97.33
	ルクセンブルグ	140,693	0.11
	小計	120,918,726	97.45
預金・その他の資産（負債控除後）	-	3,170,159	2.55
合計（純資産総額）		124,088,885	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（２）【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

（2024年3月29日現在）

順位	銘柄名	通貨 地域	種類	数量	簿価単価(円) 簿価金額(円)	評価単価(円) 時価金額(円)	投資 比率 (%)
1	FCCF EUXUK EQUITY G- ACC-JPY H	日本・円 アイルランド	投資証券	7,574.67	14,559.26 110,281,532	15,945.00 120,778,033	97.33
2	FF-US DOLLAR CASH FUND Y ACC USD	アメリカ・ドル ルクセンブルグ	投資証券	79.70	1,710.93 136,361	1,765.28 140,693	0.11

種類別投資比率

（2024年3月29日現在）

種類	国内 / 外国	投資比率 (%)
投資証券	外国	97.45
合計（対純資産総額比）		97.45

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

2024年3月末日および同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次のとおりです。

期	年月日	純資産総額 (百万円) (分配落)	純資産総額 (百万円) (分配付)	1口当たり純資産額 (円) (分配落)	1口当たり純資産額 (円) (分配付)
1期	(2021年8月30日)	98	98	1.2396	1.2396
2期	(2022年8月30日)	133	133	1.1366	1.1366
3期	(2023年8月30日)	160	160	1.2651	1.2651
	2023年3月末日	339	-	1.2422	-
	2023年4月末日	345	-	1.2613	-
	2023年5月末日	343	-	1.2450	-
	2023年6月末日	336	-	1.2519	-
	2023年7月末日	171	-	1.2796	-
	2023年8月末日	159	-	1.2610	-
	2023年9月末日	139	-	1.2152	-
	2023年10月末日	131	-	1.1746	-
	2023年11月末日	170	-	1.2486	-
	2023年12月末日	160	-	1.2853	-
	2024年1月末日	134	-	1.3073	-
	2024年2月末日	126	-	1.3279	-
	2024年3月末日	124	-	1.3674	-

【分配の推移】

期	1口当たりの分配金(円)
第1期	0.0000
第2期	0.0000
第3期	0.0000

【収益率の推移】

期	収益率(%)
第1期	24.0
第2期	8.3
第3期	11.3
第4期中 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日	5.0

(注) 収益率とは、計算期間末の基準価額（分配付）から前計算期間末の基準価額（分配落）を控除した額を直前の計算期間末の基準価額（分配落）で除して得た数に100を乗じて得た数字です。なお、小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁目まで表示しております。

(4) 【設定及び解約の実績】

下記計算期間中の設定および解約の実績ならびに当該計算期間末の発行済数量は次のとおりです。

期	設定数量 (口)	解約数量 (口)	発行済数量 (口)
第1期	81,269,828	2,090,349	79,179,479
第2期	200,905,549	162,911,615	117,173,413
第3期	223,590,660	213,825,916	126,938,157
第4期中 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日	45,812,907	77,757,309	94,993,755

(注) 本邦外における設定及び解約はありません。

【フィデリティ・北米株式・ファンド(ファンドラップ専用)】

(1) 【投資状況】

(2024年3月29日現在)

資産の種類	国・地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
投資証券	アイルランド	1,099,967,069	99.54
	ルクセンブルグ	950,025	0.09
	小計	1,100,917,094	99.63
預金・その他の資産(負債控除後)	-	4,107,047	0.37
合計(純資産総額)		1,105,024,141	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

(2) 【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

(2024年3月29日現在)

順位	銘柄名	通貨 地域	種類	数量	簿価単価(円) 簿価金額(円)	評価単価(円) 時価金額(円)	投資 比率 (%)
1	FCCF N AMERICA EQUITY G-ACCJPY H	日本・円 アイルランド	投資証券	71,126.23	13,646.00 970,588,488	15,465.00 1,099,967,069	99.54
2	FF-US DOLLAR CASH FUND Y ACC USD	アメリカ・ドル ルクセンブルグ	投資証券	538.17	1,710.93 920,772	1,765.29 950,025	0.09

種類別投資比率

(2024年3月29日現在)

種類	国内/外国	投資比率 (%)
投資証券	外国	99.63
合計(対純資産総額比)		99.63

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

2024年3月末日および同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次のとおりです。

期	年月日	純資産総額 (百万円) (分配落)	純資産総額 (百万円) (分配付)	1口当たり純資産額 (円) (分配落)	1口当たり純資産額 (円) (分配付)
1期	(2021年8月30日)	372	372	1.2333	1.2333
2期	(2022年8月30日)	1,147	1,147	1.0804	1.0804
3期	(2023年8月30日)	1,638	1,638	1.1591	1.1591
	2023年3月末日	1,379	-	1.0705	-
	2023年4月末日	1,406	-	1.0873	-
	2023年5月末日	1,387	-	1.1025	-
	2023年6月末日	1,399	-	1.1387	-
	2023年7月末日	1,632	-	1.1778	-
	2023年8月末日	1,645	-	1.1638	-
	2023年9月末日	1,555	-	1.1085	-
	2023年10月末日	1,524	-	1.0726	-
	2023年11月末日	1,625	-	1.1690	-
	2023年12月末日	1,528	-	1.2142	-
	2024年1月末日	1,252	-	1.2506	-
	2024年2月末日	1,164	-	1.2711	-
	2024年3月末日	1,105	-	1.3069	-

【分配の推移】

期	1口当たりの分配金(円)
第1期	0.0000
第2期	0.0000
第3期	0.0000

【収益率の推移】

期	収益率(%)
第1期	23.3
第2期	12.4
第3期	7.3
第4期中 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日	9.7

(注) 収益率とは、計算期間末の基準価額（分配付）から前計算期間末の基準価額（分配落）を控除した額を直前の計算期間末の基準価額（分配落）で除して得た数に100を乗じて得た数字です。なお、小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁目まで表示しております。

(4) 【設定及び解約の実績】

下記計算期間中の設定および解約の実績ならびに当該計算期間末の発行済数量は次のとおりです。

期	設定数量 (口)	解約数量 (口)	発行済数量 (口)
第1期	302,721,100	1,023,557	301,697,543
第2期	1,086,402,833	326,448,736	1,061,651,640
第3期	881,038,967	529,407,344	1,413,283,263
第4期中 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日	187,385,528	684,683,803	915,984,988

(注) 本邦外における設定及び解約はありません。

【フィデリティ・英国株式・ファンド（ファンドラップ専用）】

（１）【投資状況】

（2024年3月29日現在）

資産の種類	国・地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
投資証券	アイルランド	105,229,630	99.65
	ルクセンブルグ	126,729	0.12
	小計	105,356,359	99.77
預金・その他の資産（負債控除後）	-	246,419	0.23
合計（純資産総額）		105,602,778	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（２）【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

（2024年3月29日現在）

順位	銘柄名	通貨 地域	種類	数量	簿価単価(円) 簿価金額(円)	評価単価(円) 時価金額(円)	投資 比率 (%)
1	FCCF UK EQUITY G-ACC- JPY H	日本・円 アイルランド	投資証券	7,276.79	13,481.28 98,100,427	14,461.00 105,229,631	99.65
2	FF-US DOLLAR CASH FUND Y ACC USD	アメリカ・ドル ルクセンブルグ	投資証券	71.79	1,710.91 122,826	1,765.27 126,728	0.12

種類別投資比率

（2024年3月29日現在）

種類	国内 / 外国	投資比率 (%)
投資証券	外国	99.77
合計（対純資産総額比）		99.77

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

2024年3月末日および同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次のとおりです。

期	年月日	純資産総額 (百万円) (分配落)	純資産総額 (百万円) (分配付)	1口当たり純資産額 (円) (分配落)	1口当たり純資産額 (円) (分配付)
1期	(2021年8月30日)	61	61	1.1554	1.1554
2期	(2022年8月30日)	90	90	1.1165	1.1165
3期	(2023年8月30日)	178	178	1.1249	1.1249
	2023年3月末日	201	-	1.1524	-
	2023年4月末日	207	-	1.1871	-
	2023年5月末日	194	-	1.1431	-
	2023年6月末日	174	-	1.1159	-
	2023年7月末日	181	-	1.1489	-
	2023年8月末日	178	-	1.1267	-
	2023年9月末日	171	-	1.1292	-
	2023年10月末日	155	-	1.0718	-
	2023年11月末日	187	-	1.1177	-
	2023年12月末日	171	-	1.1659	-
	2024年1月末日	135	-	1.1562	-
	2024年2月末日	109	-	1.1456	-
	2024年3月末日	105	-	1.1984	-

【分配の推移】

期	1口当たりの分配金(円)
第1期	0.0000
第2期	0.0000
第3期	0.0000

【収益率の推移】

期	収益率(%)
第1期	15.5
第2期	3.4
第3期	0.8
第4期中 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日	1.8

(注) 収益率とは、計算期間末の基準価額（分配付）から前計算期間末の基準価額（分配落）を控除した額を直前の計算期間末の基準価額（分配落）で除して得た数に100を乗じて得た数字です。なお、小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁目まで表示しております。

(4) 【設定及び解約の実績】

下記計算期間中の設定および解約の実績ならびに当該計算期間末の発行済数量は次のとおりです。

期	設定数量 (口)	解約数量 (口)	発行済数量 (口)
第1期	53,740,413	249,206	53,491,207
第2期	80,234,407	52,480,020	81,245,594
第3期	126,606,014	49,571,511	158,280,097
第4期中 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日	40,252,629	103,156,369	95,376,357

(注) 本邦外における設定及び解約はありません。

【フィデリティ・世界総合債券・ファンド(ファンドラップ専用)】

(1) 【投資状況】

(2024年3月29日現在)

資産の種類	国・地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
投資証券	アイルランド	514,038,420	99.69
	ルクセンブルグ	615,609	0.12
	小計	514,654,029	99.81
預金・その他の資産(負債控除後)	-	975,272	0.19
合計(純資産総額)		515,629,301	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

(2) 【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

(2024年3月29日現在)

順位	銘柄名	通貨 地域	種類	数量	簿価単価(円) 簿価金額(円)	評価単価(円) 時価金額(円)	投資 比率 (%)
1	FCCF GL BOND G-ACC-JPY H	日本・円 アイルランド	投資証券	60,044.20	8,499.99 510,375,725	8,561.00 514,038,421	99.69
2	FF-US DOLLAR CASH FUND Y ACC USD	アメリカ・ドル ルクセンブルグ	投資証券	348.73	1,710.92 596,652	1,765.29 615,608	0.12

種類別投資比率

(2024年3月29日現在)

種類	国内/外国	投資比率 (%)
投資証券	外国	99.81
合計(対純資産総額比)		99.81

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

2024年3月末日および同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次のとおりです。

期	年月日	純資産総額 (百万円) (分配落)	純資産総額 (百万円) (分配付)	1口当たり純資産額 (円) (分配落)	1口当たり純資産額 (円) (分配付)
1期	(2021年8月30日)	469	469	0.9804	0.9804
2期	(2022年8月30日)	630	630	0.8800	0.8800
3期	(2023年8月30日)	768	768	0.8308	0.8308
	2023年3月末日	607	-	0.8567	-
	2023年4月末日	728	-	0.8534	-
	2023年5月末日	724	-	0.8465	-
	2023年6月末日	744	-	0.8433	-
	2023年7月末日	762	-	0.8408	-
	2023年8月末日	767	-	0.8309	-
	2023年9月末日	734	-	0.8106	-
	2023年10月末日	717	-	0.8019	-
	2023年11月末日	708	-	0.8275	-
	2023年12月末日	629	-	0.8503	-
	2024年1月末日	563	-	0.8372	-
	2024年2月末日	561	-	0.8301	-
	2024年3月末日	515	-	0.8344	-

【分配の推移】

期	1口当たりの分配金(円)
第1期	0.0000
第2期	0.0000
第3期	0.0000

【収益率の推移】

期	収益率(%)
第1期	2.0
第2期	10.2
第3期	5.6
第4期中 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日	0.1

(注) 収益率とは、計算期間末の基準価額（分配付）から前計算期間末の基準価額（分配落）を控除した額を直前の計算期間末の基準価額（分配落）で除して得た数に100を乗じて得た数字です。なお、小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁目まで表示しております。

(4) 【設定及び解約の実績】

下記計算期間中の設定および解約の実績ならびに当該計算期間末の発行済数量は次のとおりです。

期	設定数量 (口)	解約数量 (口)	発行済数量 (口)
第1期	482,564,662	3,338,213	479,226,449
第2期	682,002,777	444,682,648	716,546,578
第3期	720,787,828	512,900,286	924,434,120
第4期中 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日	99,721,511	347,134,286	677,021,345

(注) 本邦外における設定及び解約はありません。

【フィデリティ・世界ハイ・イールド債券・ファンド(ファンドラップ専用)】

(1) 【投資状況】

(2024年3月29日現在)

資産の種類	国・地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
投資証券	アイルランド	470,929,875	99.77
	ルクセンブルグ	493,062	0.10
	小計	471,422,937	99.88
預金・その他の資産(負債控除後)	-	582,643	0.12
合計(純資産総額)		472,005,580	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

(2) 【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

(2024年3月29日現在)

順位	銘柄名	通貨 地域	種類	数量	簿価単価(円) 簿価金額(円)	評価単価(円) 時価金額(円)	投資 比率 (%)
1	FCCF GL SOCITIE GENERALE FI GACC-JPY H	日本・円 アイルランド	投資証券	49,229.55	9,168.70 451,371,031	9,566.00 470,929,875	99.77
2	FF-US DOLLAR CASH FUND Y ACC USD	アメリカ・ドル ルクセンブルグ	投資証券	279.31	1,710.93 477,880	1,765.29 493,062	0.10

種類別投資比率

(2024年3月29日現在)

種類	国内/外国	投資比率 (%)
投資証券	外国	99.88
合計(対純資産総額比)		99.88

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

2024年3月末日および同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次のとおりです。

期	年月日	純資産総額 (百万円) (分配落)	純資産総額 (百万円) (分配付)	1口当たり純資産額 (円) (分配落)	1口当たり純資産額 (円) (分配付)
1期	(2021年8月30日)	385	385	1.0203	1.0203
2期	(2022年8月30日)	433	433	0.8379	0.8379
3期	(2023年8月30日)	437	437	0.8365	0.8365
	2023年3月末日	443	-	0.8307	-
	2023年4月末日	413	-	0.8390	-
	2023年5月末日	402	-	0.8294	-
	2023年6月末日	394	-	0.8405	-
	2023年7月末日	426	-	0.8408	-
	2023年8月末日	438	-	0.8382	-
	2023年9月末日	415	-	0.8193	-
	2023年10月末日	416	-	0.8044	-
	2023年11月末日	457	-	0.8398	-
	2023年12月末日	509	-	0.8618	-
	2024年1月末日	484	-	0.8584	-
	2024年2月末日	487	-	0.8610	-
	2024年3月末日	472	-	0.8709	-

【分配の推移】

期	1口当たりの分配金(円)
第1期	0.0000
第2期	0.0000
第3期	0.0000

【収益率の推移】

期	収益率(%)
第1期	2.0
第2期	17.9
第3期	0.2
第4期中 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日	2.9

(注) 収益率とは、計算期間末の基準価額（分配付）から前計算期間末の基準価額（分配落）を控除した額を直前の計算期間末の基準価額（分配落）で除して得た数に100を乗じて得た数字です。なお、小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁目まで表示しております。

(4) 【設定及び解約の実績】

下記計算期間中の設定および解約の実績ならびに当該計算期間末の発行済数量は次のとおりです。

期	設定数量 (口)	解約数量 (口)	発行済数量 (口)
第1期	379,329,021	1,740,572	377,588,449
第2期	509,459,813	369,420,564	517,627,698
第3期	304,191,992	298,728,772	523,090,918
第4期中 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日	172,689,034	129,629,924	566,150,028

(注) 本邦外における設定及び解約はありません。

【フィデリティ・アジア・パシフィック株式・ファンド(ファンドラップ専用)】

(1) 【投資状況】

(2024年3月29日現在)

資産の種類	国・地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
投資証券	アイルランド	22,506,515	98.93
	ルクセンブルグ	27,891	0.12
	小計	22,534,406	99.05
預金・その他の資産(負債控除後)	-	215,454	0.95
合計(純資産総額)		22,749,860	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

(2) 【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

(2024年3月29日現在)

順位	銘柄名	通貨 地域	種類	数量	簿価単価(円) 簿価金額(円)	評価単価(円) 時価金額(円)	投資 比率 (%)
1	FCCF APXJP EQUITY G- ACC-JPY H	日本・円 アイルランド	投資証券	2,255.84	9,672.00 21,818,485	9,977.00 22,506,515	98.93
2	FF-US DOLLAR CASH FUND Y ACC USD	アメリカ・ドル ルクセンブルグ	投資証券	15.80	1,710.93 27,032	1,765.27 27,891	0.12

種類別投資比率

(2024年3月29日現在)

種類	国内/外国	投資比率 (%)
投資証券	外国	99.05
合計(対純資産総額比)		99.05

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

2024年3月末日および同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次のとおりです。

期	年月日	純資産総額 (百万円) (分配落)	純資産総額 (百万円) (分配付)	1口当たり純資産額 (円) (分配落)	1口当たり純資産額 (円) (分配付)
1期	(2021年8月30日)	27	27	1.0688	1.0688
2期	(2022年8月30日)	22	22	0.8804	0.8804
3期	(2023年8月30日)	22	22	0.8507	0.8507
	2023年3月末日	22	-	0.8688	-
	2023年4月末日	22	-	0.8596	-
	2023年5月末日	21	-	0.8452	-
	2023年6月末日	22	-	0.8635	-
	2023年7月末日	23	-	0.9046	-
	2023年8月末日	22	-	0.8496	-
	2023年9月末日	21	-	0.8178	-
	2023年10月末日	20	-	0.7935	-
	2023年11月末日	21	-	0.8281	-
	2023年12月末日	22	-	0.8556	-
	2024年1月末日	21	-	0.8165	-
	2024年2月末日	22	-	0.8472	-
	2024年3月末日	22	-	0.8746	-

【分配の推移】

期	1口当たりの分配金(円)
第1期	0.0000
第2期	0.0000
第3期	0.0000

【収益率の推移】

期	収益率(%)
第1期	6.9
第2期	17.6
第3期	3.4
第4期中 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日	0.4

(注) 収益率とは、計算期間末の基準価額（分配付）から前計算期間末の基準価額（分配落）を控除した額を直前の計算期間末の基準価額（分配落）で除して得た数に100を乗じて得た数字です。なお、小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁目まで表示しております。

(4) 【設定及び解約の実績】

下記計算期間中の設定および解約の実績ならびに当該計算期間末の発行済数量は次のとおりです。

期	設定数量 (口)	解約数量 (口)	発行済数量 (口)
第1期	26,012,500	0	26,012,500
第2期	14,589	10,165	26,016,924
第3期	9,649	13,390	26,013,183
第4期中 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日	0	109	26,013,074

(注) 本邦外における設定及び解約はありません。

【フィデリティ・オルタナティブ株式・ファンド(ファンドラップ専用)】

(1) 【投資状況】

(2024年3月29日現在)

資産の種類	国・地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
投資証券	アイルランド	177,302,547	99.38
	ルクセンブルグ	208,251	0.12
	小計	177,510,798	99.50
預金・その他の資産(負債控除後)	-	889,195	0.50
合計(純資産総額)		178,399,993	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

(2) 【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

(2024年3月29日現在)

順位	銘柄名	通貨 地域	種類	数量	簿価単価(円) 簿価金額(円)	評価単価(円) 時価金額(円)	投資 比率 (%)
1	FCCF ALT EQUITY G-ACC- JPY H	日本・円 アイルランド	投資証券	18,993.31	9,213.92 175,002,958	9,335.00 177,302,548	99.38
2	FF-US DOLLAR CASH FUND Y ACC USD	アメリカ・ドル ルクセンブルグ	投資証券	117.97	1,710.94 201,840	1,765.29 208,250	0.12

種類別投資比率

(2024年3月29日現在)

種類	国内/外国	投資比率 (%)
投資証券	外国	99.50
合計(対純資産総額比)		99.50

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

2024年3月末日および同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次のとおりです。

期	年月日	純資産総額 (百万円) (分配落)	純資産総額 (百万円) (分配付)	1口当たり純資産額 (円) (分配落)	1口当たり純資産額 (円) (分配付)
1期	(2021年8月30日)	115	115	1.0602	1.0602
2期	(2022年8月30日)	256	256	1.0481	1.0481
3期	(2023年8月30日)	279	279	0.8822	0.8822
	2023年3月末日	266	-	0.9678	-
	2023年4月末日	279	-	0.9800	-
	2023年5月末日	267	-	0.9495	-
	2023年6月末日	268	-	0.9028	-
	2023年7月末日	280	-	0.9008	-
	2023年8月末日	282	-	0.8886	-
	2023年9月末日	282	-	0.9041	-
	2023年10月末日	273	-	0.8839	-
	2023年11月末日	279	-	0.9283	-
	2023年12月末日	251	-	0.9425	-
	2024年1月末日	197	-	0.9151	-
	2024年2月末日	192	-	0.8952	-
	2024年3月末日	178	-	0.8903	-

【分配の推移】

期	1口当たりの分配金(円)
第1期	0.0000
第2期	0.0000
第3期	0.0000

【収益率の推移】

期	収益率(%)
第1期	6.0
第2期	1.1
第3期	15.8
第4期中 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日	1.5

(注) 収益率とは、計算期間末の基準価額（分配付）から前計算期間末の基準価額（分配落）を控除した額を直前の計算期間末の基準価額（分配落）で除して得た数に100を乗じて得た数字です。なお、小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁目まで表示しております。

(4) 【設定及び解約の実績】

下記計算期間中の設定および解約の実績ならびに当該計算期間末の発行済数量は次のとおりです。

期	設定数量 (口)	解約数量 (口)	発行済数量 (口)
第1期	108,981,365	489,712	108,491,653
第2期	199,559,192	63,582,689	244,468,156
第3期	149,771,692	76,853,722	317,386,126
第4期中 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日	45,380,175	147,527,518	215,238,783

(注) 本邦外における設定及び解約はありません。

【フィデリティ・世界新興国株式・ファンド（ファンドラップ専用）】

（１）【投資状況】

（2024年3月29日現在）

資産の種類	国・地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
投資証券	アイルランド	198,577,503	99.14
	ルクセンブルグ	224,385	0.11
	小計	198,801,888	99.25
預金・その他の資産（負債控除後）	-	1,503,228	0.75
合計（純資産総額）		200,305,116	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（２）【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

（2024年3月29日現在）

順位	銘柄名	通貨 地域	種類	数量	簿価単価(円) 簿価金額(円)	評価単価(円) 時価金額(円)	投資 比率 (%)
1	FCCF GL EMERGING MARKET EQUITY G-ACC- JPY H	日本・円 アイルランド	投資証券	18,096.92	10,551.05 190,941,513	10,973.00 198,577,503	99.14
2	FF-US DOLLAR CASH FUND Y ACC USD	アメリカ・ドル ルクセンブルグ	投資証券	127.11	1,710.92 217,476	1,765.28 224,385	0.11

種類別投資比率

（2024年3月29日現在）

種類	国内 / 外国	投資比率 (%)
投資証券	外国	99.25
合計（対純資産総額比）		99.25

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

2024年3月末日および同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次のとおりです。

期	年月日	純資産総額 (百万円) (分配落)	純資産総額 (百万円) (分配付)	1口当たり純資産額 (円) (分配落)	1口当たり純資産額 (円) (分配付)
1期	(2021年8月30日)	60	60	1.0983	1.0983
2期	(2022年8月30日)	291	291	0.8871	0.8871
3期	(2023年8月30日)	381	381	0.8998	0.8998
	2023年3月末日	391	-	0.8784	-
	2023年4月末日	392	-	0.8676	-
	2023年5月末日	384	-	0.8613	-
	2023年6月末日	368	-	0.8918	-
	2023年7月末日	393	-	0.9463	-
	2023年8月末日	380	-	0.8979	-
	2023年9月末日	364	-	0.8592	-
	2023年10月末日	332	-	0.8317	-
	2023年11月末日	314	-	0.8810	-
	2023年12月末日	285	-	0.9066	-
	2024年1月末日	220	-	0.8744	-
	2024年2月末日	212	-	0.9089	-
	2024年3月末日	200	-	0.9327	-

【分配の推移】

期	1口当たりの分配金(円)
第1期	0.0000
第2期	0.0000
第3期	0.0000

【収益率の推移】

期	収益率(%)
第1期	9.8
第2期	19.2
第3期	1.4
第4期中 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日	1.0

(注) 収益率とは、計算期間末の基準価額（分配付）から前計算期間末の基準価額（分配落）を控除した額を直前の計算期間末の基準価額（分配落）で除して得た数に100を乗じて得た数字です。なお、小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁目まで表示しております。

(4) 【設定及び解約の実績】

下記計算期間中の設定および解約の実績ならびに当該計算期間末の発行済数量は次のとおりです。

期	設定数量 (口)	解約数量 (口)	発行済数量 (口)
第1期	55,953,324	638,323	55,315,001
第2期	342,917,388	70,102,465	328,129,924
第3期	270,842,063	175,243,470	423,728,517
第4期中 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日	47,877,985	238,347,476	233,259,026

(注) 本邦外における設定及び解約はありません。

【フィデリティ・世界リート・ファンド（ファンドラップ専用）】

（１）【投資状況】

（2024年3月29日現在）

資産の種類	国・地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	日本	110,858,236	101.38
預金・その他の資産（負債控除後）	-	1,504,058	1.38
合計（純資産総額）		109,354,178	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

その他資産の投資状況

（2024年3月29日現在）

資産の種類	国・地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
為替予約取引（売建）	日本	106,774,847	97.64

（注）為替予約取引の時価については、原則として対顧客先物売買相場の仲値で評価しています。

（参考）マザーファンドの投資状況

フィデリティ・グローバル・リート・マザーファンド

（2024年3月29日現在）

資産の種類	国・地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
投資証券	アメリカ	3,607,620,799	73.17
	イギリス	688,637,577	13.97
	シンガポール	151,015,713	3.06
	日本	133,638,400	2.71
	オランダ	114,478,580	2.32
	フランス	32,225,453	0.65
	小計	4,727,616,522	95.89
預金・その他の資産（負債控除後）	-	202,781,376	4.11
合計（純資産総額）		4,930,397,898	100.00

（注）投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

その他資産の投資状況

(2024年3月29日現在)

資産の種類	国・地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
為替予約取引(売建)	日本	2,266,041	0.05

(注) 為替予約取引の時価については、原則として対顧客先物売買相場の仲値で評価しています。

(2) 【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

(2024年3月29日現在)

順位	種類	銘柄名	国・地域	数量 (口数)	帳簿価 額単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	親投資信託 受益証券	フィデリティ・グローバル・リート・マザーファンド	日本	45,418,812	2.2475	102,082,427	2.4408	110,858,236	101.38

種類別投資比率

(2024年3月29日現在)

種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	101.38

(参考) マザーファンドの投資有価証券の主要銘柄

フィデリティ・グローバル・リート・マザーファンド

(2024年3月29日現在)

順位	銘柄名	通貨 地域	種類	数量	簿価単価(円) 簿価金額(円)	評価単価(円) 時価金額(円)	投資 比率 (%)
1	PROLOGIS INC	アメリカ・ドル アメリカ	投資証券	23,042	15,637.62 360,322,150	19,716.61 454,310,132	9.21
2	DIGITAL REALTY TRUST INC	アメリカ・ドル アメリカ	投資証券	17,806	19,321.43 344,037,384	21,809.10 388,332,770	7.88
3	INVITATION HOMES INC	アメリカ・ドル アメリカ	投資証券	63,189	4,725.50 298,600,004	5,391.71 340,696,769	6.91
4	AMERICAN HOMES 4 RENT CL A	アメリカ・ドル アメリカ	投資証券	59,308	5,220.61 309,624,341	5,568.86 330,277,937	6.70
5	EQUITY LIFESTYLE PROPERTIES	アメリカ・ドル アメリカ	投資証券	29,313	9,840.13 288,443,903	9,750.80 285,825,317	5.80
6	WELLTOWER INC	アメリカ・ドル アメリカ	投資証券	17,288	12,815.34 221,551,639	14,147.75 244,586,308	4.96
7	EQUITY RESIDENTIAL	アメリカ・ドル アメリカ	投資証券	25,287	8,132.23 205,639,727	9,555.49 241,629,551	4.90
8	PUBLIC STORAGE INC	アメリカ・ドル アメリカ	投資証券	5,366	37,339.22 200,362,255	43,917.98 235,663,905	4.78
9	SEGRO PLC	イギリス・ポンド イギリス	投資証券	120,344	1,486.92 178,942,710	1,728.25 207,984,079	4.22

10	CAMDEN PROPERTY TRUST - REIT	アメリカ・ドル アメリカ	投資証券	13,804	13,189.32 182,065,443	14,898.74 205,662,262	4.17
11	LAND SECURITIES GROUP PLC	イギリス・ポンド イギリス	投資証券	156,750	1,153.57 180,823,385	1,258.61 197,287,123	4.00
12	HEALTHPEAK PPTYS INC	アメリカ・ドル アメリカ	投資証券	69,141	2,381.67 164,671,688	2,838.94 196,286,977	3.98
13	AVALONBAY COMMUNITIES INC	アメリカ・ドル アメリカ	投資証券	6,687	25,190.08 168,446,076	28,095.64 187,875,542	3.81
14	SIMON PPTY GROUP INC - REIT	アメリカ・ドル アメリカ	投資証券	6,585	17,228.94 113,452,595	23,694.15 156,025,983	3.16
15	Capitaland Ascendas REIT	シンガポール・ドル シンガポール	投資証券	486,293	304.68 148,166,924	310.54 151,015,713	3.06
16	GREAT PORTLAND ESTATES PLC	イギリス・ポンド イギリス	投資証券	191,761	783.63 150,269,766	741.55 142,200,590	2.88
17	HEALTHCARE REALTY TRUST INC	アメリカ・ドル アメリカ	投資証券	66,192	2,159.10 142,915,584	2,142.45 141,813,149	2.88
18	BRITISH LAND CO PLC	イギリス・ポンド イギリス	投資証券	186,801	603.64 112,760,651	755.70 141,165,784	2.86
19	GLP投資法人	日本・円 日本	投資証券	1,064	136,600.00 145,342,400	125,600.00 133,638,400	2.71
20	AMERICAN TOWER CORP	アメリカ・ドル アメリカ	投資証券	4,359	27,532.39 120,013,707	29,917.10 130,408,647	2.64
21	NSI NV	ユーロ オランダ	投資証券	36,910	2,879.55 106,284,323	3,101.56 114,478,579	2.32
22	COPT DEFENSE PROPERTIES	アメリカ・ドル アメリカ	投資証券	18,643	3,564.19 66,447,220	3,659.58 68,225,544	1.38
23	ICADE	ユーロ フランス	投資証券	7,865	5,223.68 41,084,243	4,097.32 32,225,453	0.65

（参考）マザーファンドの種類別および業種別投資比率
フィデリティ・グローバル・リート・マザーファンド

（2024年3月29日現在）

種類	国内 / 外国	投資比率 (%)
投資証券	国内	2.71
	外国	93.18
合計（対純資産総額比）		95.89

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

(2024年3月29日現在)

種類	名称等	買建/売建	数量	簿価金額 (円)	時価金額 (円)	投資比率 (%)
為替予約取引	ユーロ	売建	20,200	3,263,414	3,284,924	3.00
	シンガポール・ドル	売建	29,900	3,317,286	3,340,727	3.05
	イギリス・ポンド	売建	82,600	15,597,168	15,715,476	14.37
	アメリカ・ドル	売建	560,500	83,233,246	84,433,720	77.21

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価金額の比率をいいます。

(注2) 為替予約取引の時価については、原則として対顧客先物売買相場の仲値で評価しています。為替予約取引の数量については、現地通貨建契約金額です。

(参考) マザーファンドのその他投資資産の主要なもの
フィデリティ・グローバル・リート・マザーファンド

(2024年3月29日現在)

種類	名称等	買建/売建	数量	簿価金額 (円)	時価金額 (円)	投資比率 (%)
為替予約取引	アメリカ・ドル	売建	14,973	2,272,450	2,266,041	0.05

(注1) 投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価金額の比率をいいます。

(注2) 為替予約取引の時価については、原則として対顧客先物売買相場の仲値で評価しています。為替予約取引の数量については、現地通貨建契約金額です。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

2024年3月末日および同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次のとおりです。

期	年月日	純資産総額 (百万円) (分配落)	純資産総額 (百万円) (分配付)	1口当たり純資産額 (円) (分配落)	1口当たり純資産額 (円) (分配付)
1期	(2021年8月30日)	53	53	1.3022	1.3022
2期	(2022年8月30日)	122	122	1.1551	1.1551
3期	(2023年8月30日)	167	167	0.9951	0.9951
	2023年3月末日	155	-	0.9765	-
	2023年4月末日	168	-	1.0053	-
	2023年5月末日	160	-	0.9747	-
	2023年6月末日	162	-	0.9893	-
	2023年7月末日	169	-	1.0173	-
	2023年8月末日	168	-	1.0003	-
	2023年9月末日	157	-	0.9273	-
	2023年10月末日	153	-	0.8811	-
	2023年11月末日	166	-	0.9637	-
	2023年12月末日	154	-	1.0429	-
	2024年1月末日	117	-	0.9871	-
	2024年2月末日	112	-	0.9674	-
	2024年3月末日	109	-	0.9990	-

【分配の推移】

期	1口当たりの分配金(円)
第1期	0.0000
第2期	0.0000
第3期	0.0000

【収益率の推移】

期	収益率(%)
第1期	30.2
第2期	11.3
第3期	13.9
第4期中 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日	2.8

(注) 収益率とは、計算期間末の基準価額（分配付）から前計算期間末の基準価額（分配落）を控除した額を直前の計算期間末の基準価額（分配落）で除して得た数に100を乗じて得た数字です。なお、小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁目まで表示しております。

(4) 【設定及び解約の実績】

下記計算期間中の設定および解約の実績ならびに当該計算期間末の発行済数量は次のとおりです。

期	設定数量 (口)	解約数量 (口)	発行済数量 (口)
第1期	40,935,100	139,690	40,795,410
第2期	85,943,871	20,790,661	105,948,620
第3期	90,473,334	27,808,159	168,613,795
第4期中 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日	27,763,476	80,548,049	115,829,222

(注) 本邦外における設定及び解約はありません。

< 参考情報 >

フィデリティ・日本株式・ファンド(ファンドラップ専用)

(別途記載がない限り2024年3月29日現在)

※運用実績等について別途月次等で適時開示している場合があります。この場合、委託会社のホームページにおいて閲覧できます。

※下記データは過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。

※各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

基準価額・純資産の推移



※分配金再投資基準価額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの分配金を再投資した実績評価額です。ただし、分配金にかかる税金は考慮していません。

※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後のものです。

基準価額	14,357円
純資産総額	158.0百万円

分配の推移

(1万口当たり/税引前)

決算期	分配金
2021年 8月	0円
2022年 8月	0円
2023年 8月	0円
設定来累計	0円

主要な資産の状況

ファンド別組入状況

フィデリティ・COMMON・CONTRACTUAL・ファンドII-フィデリティ・ジャパン・エクイティ・ファンド	99.5%
フィデリティ・ファンズ-USDドル・キャッシュ・ファンド	0.1%
現金・その他	0.4%

※別途記載がない限り、主要な資産の状況は対純資産総額比率です。

※未払金等の発生により、「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

「フィデリティ・COMMON・CONTRACTUAL・ファンドII-フィデリティ・ジャパン・エクイティ・ファンド」の運用状況(2024年2月末現在)

組入上位10銘柄

銘柄	比率
1 MITSUBISHI UFJ FINANCIAL GRO /JPY/	2.4%
2 TAKEDA PHARMACEUTICAL CO LTD /JPY/	2.1%
3 NINTENDO CO LTD /JPY/	1.9%
4 KAO CORP /JPY/	1.9%
5 ASTELLAS PHARMA INC /JPY/	1.9%
6 HITACHI LTD /JPY/	1.8%
7 TOKYO ELECTRON LTD /JPY/	1.7%
8 NISSAN MOTOR CO LTD /JPY/	1.7%
9 KEYENCE CORP /JPY/	1.6%
10 OBIC BUSINESS CONSULTANTS /JPY/	1.5%

※当ファンドの管理事務代行会社の提供するデータに基づき作成しております。

※比率は対純資産総額比率です。

※フィデリティ投信が作成時点で取得可能な投資対象ファンドの開示資料のデータに基づき作成しております。ファンドによってはデータの分類方法や評価基準日が異なる場合があるため、概算・推定値となります。掲載データに関する正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。あくまでもファンドの概略をご理解いただくことを目的として作成されておりますことにご留意ください。

年間収益率の推移



※当ファンドは、ベンチマークを設定しておりませんので、ファンド設定前の年間騰落率についての情報は記載しておりません。

※ファンドの収益率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして算出しています。

※2020年は当初設定日(2020年12月15日)以降2020年末までの実績、2024年は年初以降3月末までの実績となります。

フィデリティ・欧州株式・ファンド(ファンドラップ専用)

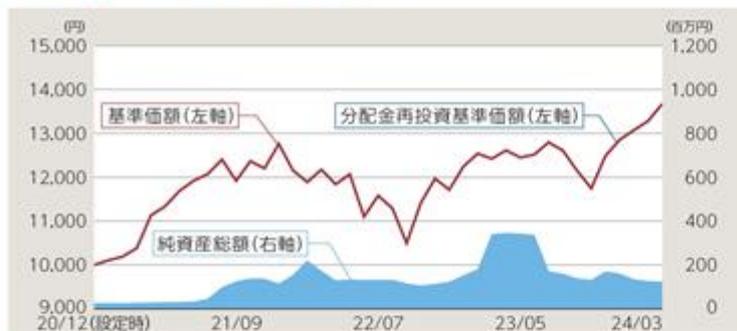
(別途記載がない限り2024年3月29日現在)

※運用実績等について別途月次等で適時開示している場合があります。この場合、委託会社のホームページにおいて閲覧できます。

※下記データは過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。

※各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

基準価額・純資産の推移



※分配金再投資基準価額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの分配金を再投資した実績評価額です。ただし、分配金にかかる税金は考慮していません。

※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後のものです。

基準価額	13,674円
純資産総額	124.1百万円

分配の推移

(1万口当たり/税引前)

決算期	分配金
2021年 8月	0円
2022年 8月	0円
2023年 8月	0円
設定来累計	0円

主要な資産の状況

ファンド別組入状況	比率
フィデリティ・コモ・コントラクチュアル・ファンドⅡ-フィデリティ・ヨーロッパ(除く英国)・エクイティ・ファンド	97.3%
フィデリティ・ファンズ-USDドル・キャッシュ・ファンド	0.1%
現金・その他	2.6%

※別途記載がない限り、主要な資産の状況は対純資産総額比率です。

※未払金等の発生により、「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

「フィデリティ・コモ・コントラクチュアル・ファンドⅡ-フィデリティ・ヨーロッパ(除く英国)・エクイティ・ファンド」の運用状況(2024年2月末現在)

組入上位10銘柄

銘柄	比率
1 ROCHE HOLDING AG-GENUSSCHEIN /CHF/	3.9%
2 SAP SE /EUR/	3.1%
3 CAPGEMINI SE /EUR/	2.6%
4 SCHNEIDER ELEC SA /EUR/	2.5%
5 NOVO NORDISK A/S-B /DKK/	2.2%
6 NESTLE SA-REG /CHF/	2.2%
7 LVMH MOET HENNESSY LOUIS VUI /EUR/	2.0%
8 LINDE PLC	1.7%
9 NOVARTIS AG-REG /CHF/	1.7%
10 PUBLICIS GROUPE /EUR/	1.5%

※当ファンドの管理事務代行会社の提供するデータに基づき作成しております。

※比率は対純資産総額比率です。

※フィデリティ投信が作成時点で取得可能な投資対象ファンドの開示資料のデータに基づき作成しております。ファンドによってはデータの分類方法や評価基準日異なる場合があるため、概算・推定値となります。掲載データに関する正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。あくまでもファンドの概略をご理解いただくことを目的として作成されておりますことにご留意ください。

年間収益率の推移



※当ファンドは、ベンチマークを設定しておりませんので、ファンド設定前の年間騰落率についての情報は記載しておりません。

※ファンドの収益率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして算出しています。

※2020年は当初設定日(2020年12月15日)以降2020年末までの実績、2024年は年初以降3月末までの実績となります。

フィデリティ・北米株式・ファンド(ファンドラップ専用)

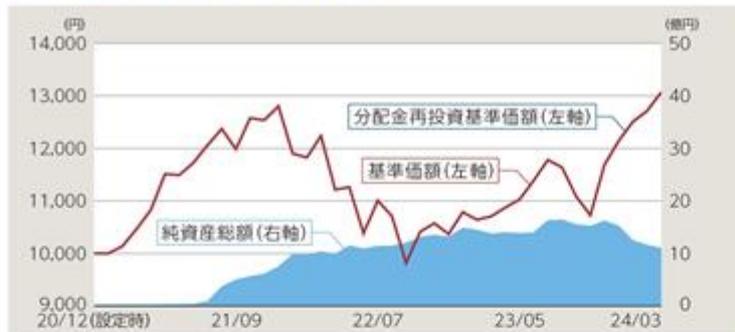
(別途記載がない限り2024年3月29日現在)

※運用実績等について別途月次等で適時開示している場合があります。この場合、委託会社のホームページにおいて閲覧できます。

※下記データは過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。

※各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

基準価額・純資産の推移



※分配金再投資基準価額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの分配金を再投資した実績評価額です。ただし、分配金にかかる税金は考慮していません。

※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後のものです。

基準価額	13,069円
純資産総額	11.1億円

分配の推移

(1万口当たり/税引前)

決算期	分配金
2021年 8月	0円
2022年 8月	0円
2023年 8月	0円
設定来累計	0円

主要な資産の状況

ファンド別組入状況	比率
フィデリティ・コモ・コンラクチュアル・ファンドⅡ-フィデリティ・ノースアメリカ・エクイティ・ファンド	99.5%
フィデリティ・ファンズ-USドル・キャッシュ・ファンド	0.1%
現金・その他	0.4%

※別途記載がない限り、主要な資産の状況は対純資産総額比率です。

※未払金等の発生により、「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

「フィデリティ・コモ・コンラクチュアル・ファンドⅡ-フィデリティ・ノースアメリカ・エクイティ・ファンド」の運用状況(2024年2月末現在)

組入上位10銘柄

銘柄	比率
1 MICROSOFT CORP	5.3%
2 AMAZON.COM INC	3.3%
3 VISA INC-CLASS A SHARES	2.7%
4 NVIDIA CORP	2.5%
5 ALPHABET INC-CL C	2.3%
6 INTUIT INC	2.1%
7 ELI LILLY & CO	1.7%
8 ADOBE INC	1.5%
9 APPLE INC	1.5%
10 THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	1.5%

※当ファンドの管理事務代行会社の提供するデータに基づき作成しております。

※比率は対純資産総額比率です。

※フィデリティ投信が作成時点で取得可能な投資対象ファンドの開示資料のデータに基づき作成しております。ファンドによってはデータの分類方法や評価基準日異なる場合があるため、概算・推定値となります。掲載データに関する正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。あくまでもファンドの概略をご理解いただくことを目的として作成されておりますことにご留意ください。

年間収益率の推移



※当ファンドは、ベンチマークを設定しておりませんので、ファンド設定前の年間騰落率についての情報は記載しておりません。

※ファンドの収益率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして算出しています。

※2020年は当初設定日(2020年12月15日)以降2020年末までの実績、2024年は年初以降3月末までの実績となります。

フィデリティ・英国株式・ファンド(ファンドラップ専用)

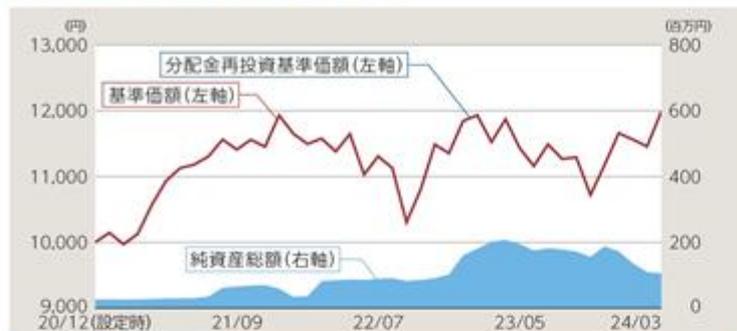
(別途記載がない限り2024年3月29日現在)

※運用実績等について別途月次等で適時開示している場合があります。この場合、委託会社のホームページにおいて閲覧できます。

※下記データは過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。

※各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

基準価額・純資産の推移



※分配金再投資基準価額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの分配金を再投資した実績評価額です。ただし、分配金にかかる税金は考慮していません。

※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後のものです。

基準価額	11,984円
純資産総額	105.6百万円

分配の推移

(1万口当たり/税引前)

決算期	分配金
2021年 8月	0円
2022年 8月	0円
2023年 8月	0円
設定来累計	0円

主要な資産の状況

ファンド別組入状況

フィデリティ・COMMON・CONTRACTUAL・FUNDⅡ-フィデリティ・UK・エクイティ・ファンド	99.6%
フィデリティ・ファンズ-USDドル・キャッシュ・ファンド	0.1%
現金・その他	0.2%

※別途記載がない限り、主要な資産の状況は対純資産総額比率です。

※未払金等の発生により、「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

「フィデリティ・COMMON・CONTRACTUAL・FUNDⅡ-フィデリティ・UK・エクイティ・ファンド」の運用状況(2024年2月末現在)

組入上位10銘柄

銘柄	比率
1 SHELL PLC-NEW /GBP/	4.1%
2 RELX PLC /GBP/	3.2%
3 NATWEST GROUP PLC /GBP/	3.1%
4 BP PLC /GBP/	3.0%
5 UNILEVER PLC /GBP/	3.0%
6 ASTRAZENECA PLC /GBP/	2.7%
7 RECKITT BENCKISER GROUP PLC /GBP/	2.2%
8 ASHTEAD GROUP PLC /GBP/	1.9%
9 LLOYDS BANKING GROUP PLC /GBP/	1.9%
10 SAGE GROUP PLC/THE /GBP/	1.7%

※当ファンドの管理事務代行会社の提供するデータに基づき作成しております。

※比率は対純資産総額比率です。

※フィデリティ投信が作成時点で取得可能な投資対象ファンドの開示資料のデータに基づき作成しております。ファンドによってはデータの分類方法や評価基準日異なる場合があるため、概算・推定値となります。掲載データに関する正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。あくまでもファンドの概略をご理解いただくことを目的として作成されておりますことにご留意ください。

年間収益率の推移



※当ファンドは、ベンチマークを設定しておりませんので、ファンド設定前の年間騰落率についての情報は記載していません。

※ファンドの収益率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして算出しています。

※2020年は当初設定日(2020年12月15日)以降2020年末までの実績、2024年は年初以降3月末までの実績となります。

フィデリティ・世界総合債券・ファンド(ファンドラップ専用)

(別途記載がない限り2024年3月29日現在)

※運用実績等について別途月次等で適時開示している場合があります。この場合、委託会社のホームページにおいて閲覧できます。

※下記データは過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。

※各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

基準価額・純資産の推移



※分配金再投資基準価額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの分配金を再投資した実績評価額です。ただし、分配金にかかる税金は考慮していません。

※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後のものです。

基準価額	8,344円
純資産総額	515.6百万円

分配の推移

(1万口当たり/税引前)

決算期	分配金
2021年 8月	0円
2022年 8月	0円
2023年 8月	0円
設定来累計	0円

主要な資産の状況

ファンド別組入状況

フィデリティ・コモン・コントラクトリアル・ファンドⅡ-フィデリティ・グローバル・アグリゲート・ボンド・ファンド	99.7%
フィデリティ・ファンズ-USDル・キャッシュ・ファンド	0.1%
現金・その他	0.2%

※別途記載がない限り、主要な資産の状況は対純資産総額比率です。

※未払金等の発生により、「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

「フィデリティ・コモン・コントラクトリアル・ファンドⅡ-フィデリティ・グローバル・アグリゲート・ボンド・ファンド」の運用状況(2024年2月末現在)

組入上位10銘柄

銘柄	比率
1 FNMA 30YR TBA 6.5% MAR 24 TO BE ANNOUNCED	6.0%
2 FNMA 30YR TBA 5% MAY 12 TO BE ANNOUNCED	3.2%
3 PIMCO STERLING SHORT MATURITY UCITS ETF /GBP/ CL GBP INCOME	2.3%
4 JAPAN TREASURY DISC BILL /JPY/ REGD ZCP SER 1198	2.0%
5 UNITED STATES TREASURY NOTE	1.9%
6 JAPAN TREASURY DISC BILL /JPY/ REGD ZCP SER 1208	1.8%
7 UNITED STATES TREASURY NOTE	1.4%
8 JAPAN TREASURY DISC BILL /JPY/ REGD ZCP SER 1213	1.3%
9 FNMA 30YR TBA 4.5% MAR 24 TO BE ANNOUNCED	1.3%
10 FNMA 30YR TBA 6% APR 24 TO BE ANNOUNCED	1.2%

※当ファンドの管理事務代行会社の提供するデータに基づき作成しております。

※比率は対純資産総額比率です。

※フィデリティ投信が作成時点で取得可能な投資対象ファンドの開示資料のデータに基づき作成しております。ファンドによってはデータの分類方法や評価基準日異なる場合があるため、概算・推定値となります。掲載データに関する正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。あくまでもファンドの概略をご理解いただくことを目的として作成されておりますことにご留意ください。

年間収益率の推移



※当ファンドは、ベンチマークを設定しておりませんので、ファンド設定前の年間騰落率についての情報は記載しておりません。

※ファンドの収益率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして算出しています。

※2020年は当初設定日(2020年12月15日)以降2020年末までの実績、2024年は年初以降3月末までの実績となります。

フィデリティ・世界ハイ・イールド債券・ファンド(ファンドラップ専用)

(別途記載がない限り2024年3月29日現在)

※運用実績等について別途月次等で適時開示している場合があります。この場合、委託会社のホームページにおいて閲覧できます。

※下記データは過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。

※各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

基準価額・純資産の推移



※分配金再投資基準価額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの分配金を再投資した実績評価額です。ただし、分配金にかかる税金は考慮していません。

※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後のものです。

基準価額	8,709円
純資産総額	472.0百万円

分配の推移

(1万口当たり/税引前)

決算期	分配金
2021年 8月	0円
2022年 8月	0円
2023年 8月	0円
設定来累計	0円

主要な資産の状況

ファンド別組入状況	
フィデリティ・COMMON・CONTRACTUAL・ファンドII-フィデリティ・グローバル・サブIG・フィクスト・インカム・ファンド	99.8%
フィデリティ・ファンズ-USDル・キャッシュ・ファンド	0.1%
現金・その他	0.1%

※別途記載がない限り、主要な資産の状況は対純資産総額比率です。

※未払金等の発生により、「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

「フィデリティ・COMMON・CONTRACTUAL・ファンドII-フィデリティ・グローバル・サブIG・フィクスト・インカム・ファンド」の運用状況(2024年2月末現在)

組入上位10銘柄

銘柄	比率
1 NOTA DO TESOURO NACIONAL /BRL/ REGD SER NTN	1.2%
2 NOTA DO TESOURO NACIONAL /BRL/ REGD SER NTN	1.1%
3 ARAB REPUBLIC OF EGYPT REGD REG S EMTN	1.1%
4 TITULOS DE TESORERIA /COP/ REGD SER B	1.0%
5 MEX BONOS DESARR FIX RT /MXN/ REGD SER M	1.0%
6 INDONESIA GOVERNMENT /IDR/ REGD SER 100	1.0%
7 POLAND GOVERNMENT BOND /PLN/ REGD SER 0728	0.9%
8 BONOS DE TESORERIA /PEN/ REGD	0.8%
9 GALAXY PIPELINE ASSETS REGD	0.7%
10 REPUBLIC OF SOUTH AFRICA /ZAR/ REGD SER 2030	0.7%

※当ファンドの管理事務代行会社の提供するデータに基づき作成しております。

※比率は対純資産総額比率です。

※フィデリティ投信が作成時点で取得可能な投資対象ファンドの開示資料のデータに基づき作成しております。ファンドによってはデータの分類方法や評価基準日異なる場合があるため、概算・推定値となります。掲載データに関する正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。あくまでもファンドの概略をご理解いただくことを目的として作成されておりますことにご留意ください。

年間収益率の推移



※当ファンドは、ベンチマークを設定しておりませんので、ファンド設定前の年間騰落率についての情報は記載しておりません。

※ファンドの収益率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして算出しています。

※2020年は当初設定日(2020年12月15日)以降2020年末までの実績、2024年は年初以降3月末までの実績となります。

フィデリティ・アジア・パシフィック株式・ファンド(ファンドラップ専用)

(別途記載がない限り2024年3月29日現在)

※運用実績等について別途月次等で適時開示している場合があります。この場合、委託会社のホームページにおいて閲覧できます。

※下記データは過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。

※各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

基準価額・純資産の推移



※分配金再投資基準価額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの分配金を再投資した実績評価額です。ただし、分配金にかかる税金は考慮していません。

※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後のものです。

基準価額	8,746円
純資産総額	22.7百万円

分配の推移

(1万口当たり/税引前)

決算期	分配金
2021年 8月	0円
2022年 8月	0円
2023年 8月	0円
設定来累計	0円

主要な資産の状況

ファンド別組入状況

フィデリティ・COMMON・CONTRACTUAL・ファンドⅡ-フィデリティ・アジア・パシフィック(除く日本)・エクイティ・ファンド	98.9%
フィデリティ・ファンズ-USDドル・キャッシュ・ファンド	0.1%
現金・その他	0.9%

※別途記載がない限り、主要な資産の状況は対純資産総額比率です。

※未払金等の発生により、「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

「フィデリティ・COMMON・CONTRACTUAL・ファンドⅡ-フィデリティ・アジア・パシフィック(除く日本)・エクイティ・ファンド」の運用状況(2024年2月末現在)

組入上位10銘柄

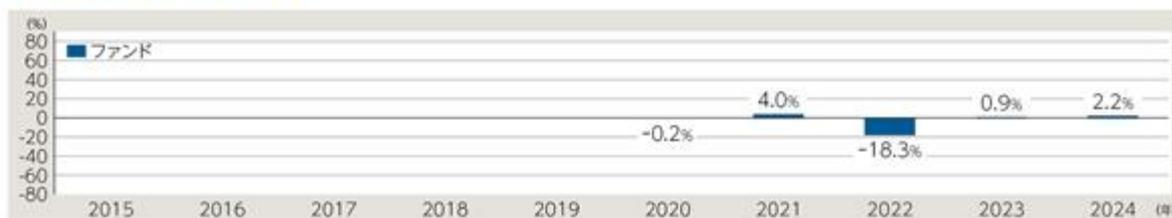
銘柄	比率
1 TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFAC /TWD/	6.0%
2 SAMSUNG ELECTRONICS CO LTD /KRW/	5.4%
3 TENCENT HOLDINGS LTD /HKD/	3.6%
4 AIA GROUP LTD /HKD/	1.8%
5 SAMSUNG FIRE & MARINE INS /KRW/	1.3%
6 TATA CONSULTANCY SVCS LTD /INR/	1.2%
7 KB FINANCIAL GROUP INC /KRW/	1.2%
8 SK HYNIX INC /KRW/	1.1%
9 WOODSIDE ENERGY GR NPV /AUD/	1.1%
10 ALIBABA GROUP HOLDING LTD /HKD/	1.0%

※当ファンドの管理事務代行会社の提供するデータに基づき作成しております。

※比率は対純資産総額比率です。

※フィデリティ投信が作成時点で取得可能な投資対象ファンドの開示資料のデータに基づき作成しております。ファンドによってはデータの分類方法や評価基準日が異なる場合があるため、概算・推定値となります。掲載データに関する正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。あくまでもファンドの概略をご理解いただくことを目的として作成されておりますことにご留意ください。

年間収益率の推移



※当ファンドは、ベンチマークを設定しておりませんので、ファンド設定前の年間騰落率についての情報は記載しておりません。

※ファンドの収益率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして算出しています。

※2020年は当初設定日(2020年12月15日)以降2020年末までの実績、2024年は年初以降3月末までの実績となります。

フィデリティ・オルタナティブ株式・ファンド(ファンドラップ専用)

(別途記載がない限り2024年3月29日現在)

※運用実績等について別途月次等で適時開示している場合があります。この場合、委託会社のホームページにおいて閲覧できます。

※下記データは過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。

※各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

基準価額・純資産の推移



基準価額	8,903円
純資産総額	178.4百万円

分配の推移

(1万口当たり/税引前)

決算期	分配金
2021年 8月	0円
2022年 8月	0円
2023年 8月	0円
設定来累計	0円

※分配金再投資基準価額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの分配金を再投資した実績評価額です。ただし、分配金にかかる税金は考慮していません。

※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後のものです。

主要な資産の状況

ファンド別組入状況

フィデリティ・COMMON・CONTRACTUAL・FUNDⅡ-フィデリティ・オルタナティブ・リステッド・エクイティ・ファンド	99.4%
フィデリティ・ファンズ-USDル・キャッシュ・ファンド	0.1%
現金・その他	0.5%

※別途記載がない限り、主要な資産の状況は対純資産総額比率です。

※未払金等の発生により、「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

「フィデリティ・COMMON・CONTRACTUAL・FUNDⅡ-フィデリティ・オルタナティブ・リステッド・エクイティ・ファンド」の運用状況(2024年2月末現在)

組入上位10銘柄

銘柄	比率
1 GREENCOAT UK WIND PLC/FUNDS /GBP/	8.9%
2 INTERNATIONAL PUBLIC PARTNERSHIPS LTD /GBP/	7.5%
3 RENEWABLES INFRASTRUCTURE GROUP LTD/THE /GBP/	7.5%
4 GREENCOAT RENEWABLES PLC /EUR/	6.7%
5 HICL INFRASTRUCTURE PLC /GBP/	6.3%
6 SEQUOIA ECONOMIC INFRASTRUCTURE INCOME FUND LTD /GBP/	4.7%
7 3I INFRASTRUCTURE PLC /GBP/	4.4%
8 JLEN ENVIRONMENTAL ASSETS GROUP LTD FORESIGHT GROUP HOLDINGS /GBP/	4.1%
9 BIOPHARMA CREDIT PLC/THE FUND REG S	4.0%
10 BBGI GLOBAL INFRASTRUCTURE SA /GBP/	4.0%

※当ファンドの管理事務代行会社の提供するデータに基づき作成しております。

※比率は対純資産総額比率です。

※フィデリティ投信が作成時点で取得可能な投資対象ファンドの開示資料のデータに基づき作成しております。ファンドによってはデータの分類方法や評価基準日異なる場合があるため、概算・推定値となります。掲載データに関する正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。あくまでもファンドの概略をご理解いただくことを目的として作成されておりますことにご留意ください。

年間収益率の推移



※当ファンドは、ベンチマークを設定しておりませんので、ファンド設定前の年間騰落率についての情報は記載しておりません。

※ファンドの収益率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして算出しています。

※2020年は当初設定日(2020年12月15日)以降2020年末までの実績、2024年は年初以降3月末までの実績となります。

フィデリティ・世界新興国株式・ファンド(ファンドラップ専用)

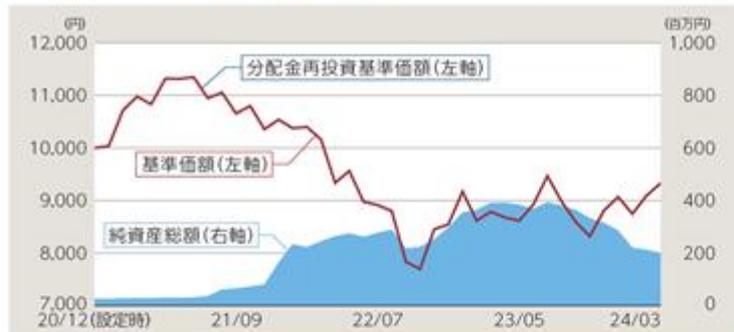
(別途記載がない限り2024年3月29日現在)

※運用実績等について別途月次等で適時開示している場合があります。この場合、委託会社のホームページにおいて閲覧できます。

※下記データは過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。

※各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

基準価額・純資産の推移



※分配金再投資基準価額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの分配金を再投資した実績評価額です。ただし、分配金にかかる税金は考慮していません。

※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後のものです。

基準価額	9,327円
純資産総額	200.3百万円

分配の推移

(1万口当たり/税引前)

決算期	分配金
2021年 8月	0円
2022年 8月	0円
2023年 8月	0円
設定来累計	0円

主要な資産の状況

ファンド別組入状況	比率
フィデリティ・モン・コントラクトリアル・ファンドⅡ-フィデリティ・グローバル・エマージング・マーケット・エクイティ・ファンド	99.1%
フィデリティ・ファンズ-USDドル・キャッシュ・ファンド	0.1%
現金・その他	0.8%

※別途記載がない限り、主要な資産の状況は対純資産総額比率です。

※未払金等の発生により、「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

「フィデリティ・モン・コントラクトリアル・ファンドⅡ-フィデリティ・グローバル・エマージング・マーケット・エクイティ・ファンド」の運用状況(2024年2月末現在)

組入上位10銘柄

銘柄	比率
1 TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFAC /TWD/	5.9%
2 TENCENT HOLDINGS LTD /HKD/	3.6%
3 SAMSUNG ELECTRONICS CO LTD /KRW/	2.2%
4 ALIBABA GROUP HOLDING LTD /HKD/	1.8%
5 HON HAI PRECISION INDUSTRY /TWD/	1.2%
6 DB INSURANCE CO LTD /KRW/	1.2%
7 HANKOOK TIRE & TECHNOLOGY CO /KRW/	1.0%
8 SK HYNIX INC /KRW/	0.9%
9 WEICHAI POWER CO LTD-H /HKD/	0.9%
10 TAIWAN SEMICONDUCTOR SPONSORED ADR /1 ADR REPS 5 ORD SHS/	0.9%

※当ファンドの管理事務代行会社の提供するデータに基づき作成しております。

※比率は対純資産総額比率です。

※フィデリティ投信が作成時点で取得可能な投資対象ファンドの開示資料のデータに基づき作成しております。ファンドによってはデータの分類方法や評価基準日異なる場合があるため、概算・推定値となります。掲載データに関する正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。あくまでもファンドの概略をご理解いただくことを目的として作成されておりますことにご留意ください。

年間収益率の推移



※当ファンドは、ベンチマークを設定しておりませんので、ファンド設定前の年間騰落率についての情報は記載しておりません。

※ファンドの収益率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして算出しています。

※2020年は当初設定日(2020年12月15日)以降2020年末までの実績、2024年は年初以降3月末までの実績となります。

フィデリティ・世界リート・ファンド(ファンドラップ専用)

(2024年3月29日現在)

※運用実績等について別途月次等で適時開示している場合があります。この場合、委託会社のホームページにおいて閲覧できます。

※下記データは過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。

※各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

基準価額・純資産の推移



※分配金再投資基準価額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの分配金を再投資した実績評価額です。ただし、分配金にかかる税金は考慮していません。

※基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後のものです。

基準価額	9,990円
純資産総額	109.4百万円

分配の推移

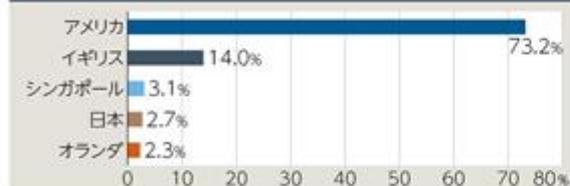
(1万口当たり/税引前)

決算期	分配金
2021年 8月	0円
2022年 8月	0円
2023年 8月	0円
設定来累計	0円

主要な資産の状況(マザーファンド)

資産別組入状況		組入上位10銘柄	
投資証券	95.9%	銘柄	比率
現金・その他	4.1%	1 プロロジス	9.2%
		2 デジタル・リアルティートラスト	7.9%
		3 インベーション・ホームズ	6.9%
		4 アメリカン・ホームズ4レント	6.7%
		5 エクイティ・ライフスタイル・プロパティーズ	5.8%
		6 ウェルタワー	5.0%
		7 エクイティ・レジデンシャル	4.9%
		8 パブリック・ストレージ	4.8%
		9 セグロ	4.2%
		10 カムデン・プロパティートラスト	4.2%

組入上位5カ国・地域



※別途記載がない限り、主要な資産の状況は対純資産総額比率です。

※未払金等の発生により、「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

※銘柄はご参考のため、英文表記の一部をカタカナで表記しております。実際の発行体名と異なる場合があります。

※組入上位5カ国・地域は、各リートファンドの登録国・地域に基づき分類したものです。

年間収益率の推移



※当ファンドは、ベンチマークを設定しておりませんので、ファンド設定前の年間騰落率についての情報は記載しておりません。

※ファンドの収益率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして算出しています。

※2020年は当初設定日(2020年12月15日)以降2020年末までの実績、2024年は年初以降3月末までの実績となります。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

<訂正前>

ファンドの取得申込みは、申込期間における販売会社の営業日において行なわれます。ただし、ニューヨーク証券取引所の休業日、ニューヨークにおける銀行の休業日またはグッド・フライデーと同日の場合にはお申込みの受付は行ないません。ファンドの取得申込みの受付は、原則として午後3時までに取得申込みが行なわれ、かつ当該取得申込みの受付に係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込受付分として取扱います。ただし、受付時間は販売会社により異なることがありますので、ご注意ください。これらの受付時間を過ぎてからの取得申込みは翌営業日の取扱いとなります。

（略）

<訂正後>

ファンドの取得申込みは、申込期間における販売会社の営業日において行なわれます。ただし、ニューヨーク証券取引所の休業日、ニューヨークにおける銀行の休業日またはグッド・フライデーと同日の場合にはお申込みの受付は行ないません。ファンドの取得申込みの受付は、原則として午後3時まで^(注)に取得申込みが行なわれ、かつ当該取得申込みの受付に係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込受付分として取扱います。なお、販売会社によっては受付時間が異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。これらの受付時間を過ぎてからの取得申込みは翌営業日の取扱いとなります。

(注) 2024年11月5日以降は、「午後3時30分まで」となる予定です。

（略）

2【換金（解約）手続等】

<訂正前>

受益者は、自己に帰属する受益権につき、販売会社の営業日において一部解約の実行の請求を行なうことができます。ただし、ニューヨーク証券取引所の休業日、ニューヨークにおける銀行の休業日またはグッド・フライデーと同日の場合には一部解約の実行の請求の受付は行ないません。

一部解約の実行の請求の受付は、原則として午後3時まで一部解約の実行の請求が行なわれ、かつ当該請求の受付に係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込受付分として取扱います。ただし、受付時間は販売会社により異なることがありますので、ご注意ください。これらの受付時間を過ぎてからの一部解約の実行の請求は翌営業日の取扱いとなります。

（略）

<訂正後>

受益者は、自己に帰属する受益権につき、販売会社の営業日において一部解約の実行の請求を行なうことができます。ただし、ニューヨーク証券取引所の休業日、ニューヨークにおける銀行の休業日またはグッド・フライデーと同日の場合には一部解約の実行の請求の受付は行ないません。

一部解約の実行の請求の受付は、原則として午後3時まで^(注)一部解約の実行の請求が行なわれ、かつ当該請求の受付に係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込受付分として取扱います。なお、販売会社によっては受付時間が異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。これらの受付時間を過ぎてからの一部解約の実行の請求は翌営業日の取扱いとなります。

ファンドは、「第二部 ファンド情報 第2 管理及び運営 3 資産管理等の概要

(5) その他 (a) 信託の終了 <信託契約の解約>」の記載に従って、2024年8月8日付で信託の終了（繰上償還）を予定しております。繰上償還が確定した場合、一部解約の実行の請求の受付日は2024年8月1日までとなります。詳しくは、「第一部 証券情報 (12) その他 信託の終了（繰上償還）」をご参照ください。

(注) 2024年11月5日以降は、「午後3時30分まで」となる予定です。

（略）

3【資産管理等の概要】

（3）【信託期間】

<訂正前>

信託期間は無期限とします。ただし、下記「（5）その他（a）信託の終了」の場合には、信託は終了します。

<訂正後>

信託期間は無期限^{（注）}とします。

（注）各ファンドは、下記「（5）その他（a）信託の終了 <信託契約の解約>」の記載に従って、2024年8月8日付で信託の終了（繰上償還）を予定しております。
繰上償還が確定した場合、信託期間は2024年8月8日までとなります。

第3【ファンドの経理状況】

1【財務諸表】

原届出書「第二部 ファンド情報 第3 ファンドの経理状況 1 財務諸表」の末尾に、以下の記載内容を追加いたします。

<追加内容>

ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）ならびに同規則第38条の3、第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第4期中間計算期間（2023年8月31日から2024年2月29日まで）の中間財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより中間監査を受けております。

【フィデリティ・日本株式・ファンド（ファンドラップ専用）】

（１）【中間貸借対照表】

（単位：円）

	第3期計算期間 2023年8月30日現在	第4期中間計算期間 2024年2月29日現在
資産の部		
流動資産		
金銭信託	3,637,218	6,371,101
投資証券	166,194,905	152,416,426
未収入金	-	1,434,264
流動資産合計	169,832,123	160,221,791
資産合計	169,832,123	160,221,791
負債の部		
流動負債		
未払解約金	755,501	4,488,758
未払受託者報酬	18,193	19,058
未払委託者報酬	319,095	334,250
その他未払費用	83,205	87,202
流動負債合計	1,175,994	4,929,268
負債合計	1,175,994	4,929,268
純資産の部		
元本等		
元本	134,707,579	111,423,689
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	33,948,550	43,868,834
（分配準備積立金）	21,825,860	9,507,080
元本等合計	168,656,129	155,292,523
純資産合計	168,656,129	155,292,523
負債純資産合計	169,832,123	160,221,791

（２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第3期中間計算期間 自 2022年8月31日 至 2023年2月28日	第4期中間計算期間 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日
営業収益		
有価証券売買等損益	3,737,814	17,296,321
為替差損益	1,288	1,307
営業収益合計	3,736,526	17,297,628
営業費用		
受託者報酬	14,595	19,058
委託者報酬	256,358	334,250
その他費用	74,261	96,055
営業費用合計	345,214	449,363
営業利益又は営業損失（ ）	3,391,312	16,848,265
経常利益又は経常損失（ ）	3,391,312	16,848,265
中間純利益又は中間純損失（ ）	3,391,312	16,848,265
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	6,718	2,845,804
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	9,604,743	33,948,550
剰余金増加額又は欠損金減少額	3,942,975	23,689,244
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	3,942,975	23,689,244
剰余金減少額又は欠損金増加額	1,196,400	27,771,421
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	1,196,400	27,771,421
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	15,749,348	43,868,834

（ 3 ）【中間注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所又は店頭市場における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	為替予約取引 為替予約の評価は、原則として、わが国における中間計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。

（中間貸借対照表に関する注記）

項 目	第 3 期計算期間 2023年 8 月30日現在	第 4 期中間計算期間 2024年 2 月29日現在
1. 元本の推移		
期首元本額	114,636,912 円	134,707,579 円
期中追加設定元本額	62,950,363 円	88,417,111 円
期中一部解約元本額	42,879,696 円	111,701,001 円
2. 受益権の総数	134,707,579 口	111,423,689 口
3. 1口当たり純資産額	1.2520 円	1.3937 円

（中間損益及び剰余金計算書に関する注記）

該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

1. 中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	中間貸借対照表計上額は中間計算期末の時価で計上しているため、その差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 (2) 上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

【フィデリティ・欧州株式・ファンド(ファンドラップ専用)】

(1) 【中間貸借対照表】

(単位:円)

	第3期計算期間 2023年8月30日現在	第4期中間計算期間 2024年2月29日現在
資産の部		
流動資産		
金銭信託	3,024,962	3,655,330
投資証券	159,000,983	124,971,798
未収入金	1,292,208	1,717,312
流動資産合計	163,318,153	130,344,440
資産合計	163,318,153	130,344,440
負債の部		
流動負債		
未払解約金	2,000,110	3,836,032
未払受託者報酬	31,346	15,827
未払委託者報酬	549,212	277,638
その他未払費用	142,869	72,236
流動負債合計	2,723,537	4,201,733
負債合計	2,723,537	4,201,733
純資産の部		
元本等		
元本	126,938,157	94,993,755
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金()	33,656,459	31,148,952
(分配準備積立金)	5,426,355	2,763,930
元本等合計	160,594,616	126,142,707
純資産合計	160,594,616	126,142,707
負債純資産合計	163,318,153	130,344,440

（２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第3期中間計算期間 自 2022年8月31日 至 2023年2月28日	第4期中間計算期間 自 2023年8月31日 至 2024年2月29日
営業収益		
有価証券売買等損益	11,859,609	8,027,233
為替差損益	2,155	5,310
営業収益合計	11,861,764	8,032,543
営業費用		
受託者報酬	13,827	15,827
委託者報酬	242,828	277,638
その他費用	70,948	80,372
営業費用合計	327,603	373,837
営業利益又は営業損失（ ）	11,534,161	7,658,706
経常利益又は経常損失（ ）	11,534,161	7,658,706
中間純利益又は中間純損失（ ）	11,534,161	7,658,706
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	1,015,323	552,319
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	16,004,208	33,656,459
剰余金増加額又は欠損金減少額	12,653,687	10,297,025
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	12,653,687	10,297,025
剰余金減少額又は欠損金増加額	4,720,804	19,910,919
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	4,720,804	19,910,919
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	36,486,575	31,148,952

（ 3 ）【中間注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1．有価証券の評価基準及び評価方法	<p>投資証券</p> <p>移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所又は店頭市場における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。</p>
2．デリバティブの評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引</p> <p>為替予約の評価は、原則として、わが国における中間計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。</p>
3．その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>外貨建取引等の処理基準</p> <p>外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。</p>

（中間貸借対照表に関する注記）

項 目	第 3 期計算期間 2023年 8 月30日現在	第 4 期中間計算期間 2024年 2 月29日現在
1．元本の推移		
期首元本額	117,173,413 円	126,938,157 円
期中追加設定元本額	223,590,660 円	45,812,907 円
期中一部解約元本額	213,825,916 円	77,757,309 円
2．受益権の総数	126,938,157 口	94,993,755 口
3．1口当たり純資産額	1.2651 円	1.3279 円

（中間損益及び剰余金計算書に関する注記）

該当事項はありません。

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

1．中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	中間貸借対照表計上額は中間計算期末の時価で計上しているため、その差額はありません。
2．時価の算定方法	（１）有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 （２）上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3．金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（デリバティブ取引に関する注記）

該当事項はありません。

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

【フィデリティ・北米株式・ファンド（ファンドラップ専用）】

（１）【中間貸借対照表】

（単位：円）

	第3期計算期間 2023年8月30日現在	第4期中間計算期間 2024年2月29日現在
資産の部		
流動資産		
金銭信託	20,798,782	39,548,657
投資証券	1,621,993,334	1,153,967,204
未収入金	3,000,892	17,584,205
流動資産合計	1,645,793,008	1,211,100,066
資産合計		
	1,645,793,008	1,211,100,066
負債の部		
流動負債		
未払解約金	4,265,242	43,061,414
未払受託者報酬	159,886	161,414
未払委託者報酬	2,798,750	2,825,407
その他未払費用	454,840	735,416
流動負債合計	7,678,718	46,783,651
負債合計		
	7,678,718	46,783,651
純資産の部		
元本等		
元本	1,413,283,263	915,984,988
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	224,831,027	248,331,427
（分配準備積立金）	30,486,326	17,032,729
元本等合計	1,638,114,290	1,164,316,415
純資産合計		
	1,638,114,290	1,164,316,415
負債純資産合計		
	1,645,793,008	1,211,100,066

（２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第 3 期中間計算期間 自 2022年 8 月31日 至 2023年 2 月28日	第 4 期中間計算期間 自 2023年 8 月31日 至 2024年 2 月29日
営業収益		
有価証券売買等損益	7,862,309	132,479,093
為替差損益	13,047	28,096
営業収益合計	7,875,356	132,507,189
営業費用		
受託者報酬	145,155	161,414
委託者報酬	2,540,789	2,825,407
その他費用	684,147	760,530
営業費用合計	3,370,091	3,747,351
営業利益又は営業損失（ ）	11,245,447	128,759,838
経常利益又は経常損失（ ）	11,245,447	128,759,838
中間純利益又は中間純損失（ ）	11,245,447	128,759,838
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	2,096,192	27,780,606
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	85,390,234	224,831,027
剰余金増加額又は欠損金減少額	28,315,947	30,787,381
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	28,315,947	30,787,381
剰余金減少額又は欠損金増加額	17,038,385	108,266,213
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	17,038,385	108,266,213
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	87,518,541	248,331,427

（ 3 ）【中間注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1．有価証券の評価基準及び評価方法	投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所又は店頭市場における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2．デリバティブの評価基準及び評価方法	為替予約取引 為替予約の評価は、原則として、わが国における中間計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。
3．その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。

（中間貸借対照表に関する注記）

項 目	第 3 期計算期間 2023年 8 月30日現在	第 4 期中間計算期間 2024年 2 月29日現在
1．元本の推移		
期首元本額	1,061,651,640 円	1,413,283,263 円
期中追加設定元本額	881,038,967 円	187,385,528 円
期中一部解約元本額	529,407,344 円	684,683,803 円
2．受益権の総数	1,413,283,263 口	915,984,988 口
3．1口当たり純資産額	1.1591 円	1.2711 円

（中間損益及び剰余金計算書に関する注記）

該当事項はありません。

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

1．中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	中間貸借対照表計上額は中間計算期末の時価で計上しているため、その差額はありません。
2．時価の算定方法	（１）有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 （２）上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3．金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（デリバティブ取引に関する注記）

該当事項はありません。

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

【フィデリティ・英国株式・ファンド(ファンドラップ専用)】

(1) 【中間貸借対照表】

(単位:円)

	第3期計算期間 2023年8月30日現在	第4期中間計算期間 2024年2月29日現在
資産の部		
流動資産		
金銭信託	4,878,456	3,185,491
投資証券	174,372,949	108,153,231
未収入金	-	1,519,825
流動資産合計	179,251,405	112,858,547
資産合計	179,251,405	112,858,547
負債の部		
流動負債		
未払解約金	720,371	3,192,860
未払受託者報酬	20,817	17,465
未払委託者報酬	365,131	306,423
その他未払費用	95,222	79,821
流動負債合計	1,201,541	3,596,569
負債合計	1,201,541	3,596,569
純資産の部		
元本等		
元本	158,280,097	95,376,357
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金()	19,769,767	13,885,621
(分配準備積立金)	997,637	459,792
元本等合計	178,049,864	109,261,978
純資産合計	178,049,864	109,261,978
負債純資産合計	179,251,405	112,858,547

（２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第 3 期中間計算期間 自 2022年 8 月31日 至 2023年 2 月28日	第 4 期中間計算期間 自 2023年 8 月31日 至 2024年 2 月29日
営業収益		
有価証券売買等損益	7,644,408	4,647,402
為替差損益	1,120	3,748
営業収益合計	7,645,528	4,651,150
営業費用		
受託者報酬	11,730	17,465
委託者報酬	206,009	306,423
その他費用	61,260	88,006
営業費用合計	278,999	411,894
営業利益又は営業損失（ ）	7,366,529	4,239,256
経常利益又は経常損失（ ）	7,366,529	4,239,256
中間純利益又は中間純損失（ ）	7,366,529	4,239,256
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	153,814	1,934,542
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	9,462,810	19,769,767
剰余金増加額又は欠損金減少額	13,510,378	4,373,737
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	13,510,378	4,373,737
剰余金減少額又は欠損金増加額	1,344,511	12,562,597
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	1,344,511	12,562,597
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	29,149,020	13,885,621

（ 3 ）【中間注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所又は店頭市場における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	為替予約取引 為替予約の評価は、原則として、わが国における中間計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。

（中間貸借対照表に関する注記）

項 目	第 3 期計算期間 2023年 8 月30日現在	第 4 期中間計算期間 2024年 2 月29日現在
1. 元本の推移		
期首元本額	81,245,594 円	158,280,097 円
期中追加設定元本額	126,606,014 円	40,252,629 円
期中一部解約元本額	49,571,511 円	103,156,369 円
2. 受益権の総数	158,280,097 口	95,376,357 口
3. 1口当たり純資産額	1.1249 円	1.1456 円

（中間損益及び剰余金計算書に関する注記）

該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

1. 中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	中間貸借対照表計上額は中間計算期末の時価で計上しているため、その差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 (2) 上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

【フィデリティ・世界総合債券・ファンド（ファンドラップ専用）】

（１）【中間貸借対照表】

（単位：円）

	第3期計算期間 2023年8月30日現在	第4期中間計算期間 2024年2月29日現在
資産の部		
流動資産		
金銭信託	18,716,685	14,166,924
投資証券	754,109,055	554,285,720
流動資産合計	772,825,740	568,452,644
資産合計	772,825,740	568,452,644
負債の部		
流動負債		
未払解約金	3,111,436	4,775,680
未払受託者報酬	79,028	73,720
未払委託者報酬	1,383,703	1,291,056
その他未払費用	243,862	336,131
流動負債合計	4,818,029	6,476,587
負債合計	4,818,029	6,476,587
純資産の部		
元本等		
元本	924,434,120	677,021,345
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	156,426,409	115,045,288
元本等合計	768,007,711	561,976,057
純資産合計	768,007,711	561,976,057
負債純資産合計	772,825,740	568,452,644

（２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第 3 期中間計算期間 自 2022年 8 月31日 至 2023年 2 月28日	第 4 期中間計算期間 自 2023年 8 月31日 至 2024年 2 月29日
営業収益		
有価証券売買等損益	24,252,004	2,033,919
為替差損益	8,454	18,206
営業収益合計	24,260,458	2,052,125
営業費用		
受託者報酬	74,966	73,720
委託者報酬	1,312,684	1,291,056
その他費用	357,994	348,247
営業費用合計	1,745,644	1,713,023
営業利益又は営業損失（ ）	26,006,102	339,102
経常利益又は経常損失（ ）	26,006,102	339,102
中間純利益又は中間純損失（ ）	26,006,102	339,102
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	2,363,146	313,901
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	85,978,123	156,426,409
剰余金増加額又は欠損金減少額	31,745,152	59,035,200
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	31,745,152	59,035,200
剰余金減少額又は欠損金増加額	52,943,581	17,679,280
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	52,943,581	17,679,280
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	130,819,508	115,045,288

（ 3 ）【中間注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所又は店頭市場における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	為替予約取引 為替予約の評価は、原則として、わが国における中間計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。

（中間貸借対照表に関する注記）

項 目	第 3 期計算期間 2023年 8 月30日現在	第 4 期中間計算期間 2024年 2 月29日現在
1. 元本の推移		
期首元本額	716,546,578 円	924,434,120 円
期中追加設定元本額	720,787,828 円	99,721,511 円
期中一部解約元本額	512,900,286 円	347,134,286 円
2. 受益権の総数	924,434,120 口	677,021,345 口
3. 元本の欠損		
純資産額が元本総額を下回っている場合におけるその差額	156,426,409 円	115,045,288 円
4. 1口当たり純資産額	0.8308 円	0.8301 円

（中間損益及び剰余金計算書に関する注記）

該当事項はありません。

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

1．中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	中間貸借対照表計上額は中間計算期末の時価で計上しているため、その差額はありません。
2．時価の算定方法	（１）有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 （２）上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3．金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（デリバティブ取引に関する注記）

該当事項はありません。

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

【フィデリティ・世界ハイ・イールド債券・ファンド(ファンドラップ専用)】

(1) 【中間貸借対照表】

(単位:円)

	第3期計算期間 2023年8月30日現在	第4期中間計算期間 2024年2月29日現在
資産の部		
流動資産		
金銭信託	11,515,506	12,424,951
投資証券	429,674,368	480,465,804
流動資産合計	441,189,874	492,890,755
資産合計	441,189,874	492,890,755
負債の部		
流動負債		
未払解約金	2,575,944	4,288,985
未払受託者報酬	46,317	50,192
未払委託者報酬	811,235	879,130
その他未払費用	183,122	228,885
流動負債合計	3,616,618	5,447,192
負債合計	3,616,618	5,447,192
純資産の部		
元本等		
元本	523,090,918	566,150,028
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金()	85,517,662	78,706,465
(分配準備積立金)	702,115	553,810
元本等合計	437,573,256	487,443,563
純資産合計	437,573,256	487,443,563
負債純資産合計	441,189,874	492,890,755

（２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第 3 期中間計算期間 自 2022年 8 月31日 至 2023年 2 月28日	第 4 期中間計算期間 自 2023年 8 月31日 至 2024年 2 月29日
営業収益		
有価証券売買等損益	1,570,241	15,308,095
為替差損益	6,771	14,581
その他収益	-	191,793
営業収益合計	1,577,012	15,514,469
営業費用		
受託者報酬	48,233	50,192
委託者報酬	844,922	879,130
その他費用	231,284	240,093
営業費用合計	1,124,439	1,169,415
営業利益又は営業損失（ ）	2,701,451	14,345,054
経常利益又は経常損失（ ）	2,701,451	14,345,054
中間純利益又は中間純損失（ ）	2,701,451	14,345,054
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	619,843	718,325
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	83,912,852	85,517,662
剰余金増加額又は欠損金減少額	27,302,532	21,297,058
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	27,302,532	21,297,058
剰余金減少額又は欠損金増加額	29,954,349	28,112,590
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	29,954,349	28,112,590
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	88,646,277	78,706,465

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所又は店頭市場における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	為替予約取引 為替予約の評価は、原則として、わが国における中間計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。

(中間貸借対照表に関する注記)

項目	第3期計算期間 2023年8月30日現在	第4期中間計算期間 2024年2月29日現在
1. 元本の推移		
期首元本額	517,627,698 円	523,090,918 円
期中追加設定元本額	304,191,992 円	172,689,034 円
期中一部解約元本額	298,728,772 円	129,629,924 円
2. 受益権の総数	523,090,918 口	566,150,028 口
3. 元本の欠損		
純資産額が元本総額を下回っている場合におけるその差額	85,517,662 円	78,706,465 円
4. 1口当たり純資産額	0.8365 円	0.8610 円

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

該当事項はありません。

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

1．中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	中間貸借対照表計上額は中間計算期末の時価で計上しているため、その差額はありません。
2．時価の算定方法	（１）有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 （２）上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3．金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（デリバティブ取引に関する注記）

該当事項はありません。

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

【フィデリティ・アジア・パシフィック株式・ファンド(ファンドラップ専用)】

(1) 【中間貸借対照表】

(単位:円)

	第3期計算期間 2023年8月30日現在	第4期中間計算期間 2024年2月29日現在
資産の部		
流動資産		
金銭信託	277,923	278,978
投資証券	21,908,975	21,814,537
流動資産合計	22,186,898	22,093,515
資産合計	22,186,898	22,093,515
負債の部		
流動負債		
未払受託者報酬	2,427	2,324
未払委託者報酬	43,320	41,339
その他未払費用	11,229	10,724
流動負債合計	56,976	54,387
負債合計	56,976	54,387
純資産の部		
元本等		
元本	26,013,183	26,013,074
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金()	3,883,261	3,973,946
(分配準備積立金)	1,787,763	1,787,756
元本等合計	22,129,922	22,039,128
純資産合計	22,129,922	22,039,128
負債純資産合計	22,186,898	22,093,515

（２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第 3 期中間計算期間 自 2022年 8 月31日 至 2023年 2 月28日	第 4 期中間計算期間 自 2023年 8 月31日 至 2024年 2 月29日
営業収益		
有価証券売買等損益	775,947	31,047
為替差損益	861	825
営業収益合計	776,808	30,222
営業費用		
受託者報酬	2,337	2,324
委託者報酬	41,841	41,339
その他費用	16,936	16,819
営業費用合計	61,114	60,482
営業利益又は営業損失（ ）	837,922	90,704
経常利益又は経常損失（ ）	837,922	90,704
中間純利益又は中間純損失（ ）	837,922	90,704
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	559	3
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	3,112,375	3,883,261
剰余金増加額又は欠損金減少額	1,522	16
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	1,522	16
剰余金減少額又は欠損金増加額	1,661	-
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	1,661	-
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	3,949,877	3,973,946

（３）【中間注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所又は店頭市場における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	為替予約取引 為替予約の評価は、原則として、わが国における中間計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。

（中間貸借対照表に関する注記）

項目	第3期計算期間 2023年8月30日現在	第4期中間計算期間 2024年2月29日現在
1. 元本の推移		
期首元本額	26,016,924 円	26,013,183 円
期中追加設定元本額	9,649 円	- 円
期中一部解約元本額	13,390 円	109 円
2. 受益権の総数	26,013,183 口	26,013,074 口
3. 元本の欠損 純資産額が元本総額を下回っている場合におけるその差額	3,883,261 円	3,973,946 円
4. 1口当たり純資産額	0.8507 円	0.8472 円

（中間損益及び剰余金計算書に関する注記）

該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

1. 中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	中間貸借対照表計上額は中間計算期末の時価で計上しているため、その差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 (2) 上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

【フィデリティ・オルタナティブ株式・ファンド(ファンドラップ専用)】

(1) 【中間貸借対照表】

(単位:円)

	第3期計算期間 2023年8月30日現在	第4期中間計算期間 2024年2月29日現在
資産の部		
流動資産		
金銭信託	5,635,149	6,217,288
投資証券	275,654,848	190,259,582
未収入金	-	3,175,052
流動資産合計	281,289,997	199,651,922
資産合計	281,289,997	199,651,922
負債の部		
流動負債		
未払解約金	608,910	6,342,697
未払受託者報酬	30,075	27,361
未払委託者報酬	527,180	479,730
その他未払費用	137,419	124,964
流動負債合計	1,303,584	6,974,752
負債合計	1,303,584	6,974,752
純資産の部		
元本等		
元本	317,386,126	215,238,783
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金()	37,399,713	22,561,613
(分配準備積立金)	617,183	350,057
元本等合計	279,986,413	192,677,170
純資産合計	279,986,413	192,677,170
負債純資産合計	281,289,997	199,651,922

（２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第 3 期中間計算期間 自 2022年 8 月31日 至 2023年 2 月28日	第 4 期中間計算期間 自 2023年 8 月31日 至 2024年 2 月29日
営業収益		
有価証券売買等損益	13,816,041	8,376,112
為替差損益	3,350	5,823
営業収益合計	13,812,691	8,381,935
営業費用		
受託者報酬	28,156	27,361
委託者報酬	493,374	479,730
その他費用	137,116	133,876
営業費用合計	658,646	640,967
営業利益又は営業損失（ ）	14,471,337	7,740,968
経常利益又は経常損失（ ）	14,471,337	7,740,968
中間純利益又は中間純損失（ ）	14,471,337	7,740,968
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	2,010,399	5,661,133
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	11,767,655	37,399,713
剰余金増加額又は欠損金減少額	325,202	17,177,369
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	17,177,369
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	325,202	-
剰余金減少額又は欠損金増加額	1,898,146	4,419,104
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	1,898,146	-
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	4,419,104
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	2,266,227	22,561,613

（３）【中間注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所又は店頭市場における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	為替予約取引 為替予約の評価は、原則として、わが国における中間計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。

（中間貸借対照表に関する注記）

項目	第3期計算期間 2023年8月30日現在	第4期中間計算期間 2024年2月29日現在
1. 元本の推移		
期首元本額	244,468,156 円	317,386,126 円
期中追加設定元本額	149,771,692 円	45,380,175 円
期中一部解約元本額	76,853,722 円	147,527,518 円
2. 受益権の総数	317,386,126 口	215,238,783 口
3. 元本の欠損 純資産額が元本総額を下回っている場合におけるその差額	37,399,713 円	22,561,613 円
4. 1口当たり純資産額	0.8822 円	0.8952 円

（中間損益及び剰余金計算書に関する注記）

該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

1. 中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	中間貸借対照表計上額は中間計算期末の時価で計上しているため、その差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 (2) 上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

【フィデリティ・世界新興国株式・ファンド(ファンドラップ専用)】

(1) 【中間貸借対照表】

(単位:円)

	第3期計算期間 2023年8月30日現在	第4期中間計算期間 2024年2月29日現在
資産の部		
流動資産		
金銭信託	8,441,362	7,807,770
投資証券	374,605,117	209,879,634
未収入金	-	3,919,708
流動資産合計	383,046,479	221,607,112
資産合計	383,046,479	221,607,112
負債の部		
流動負債		
未払解約金	820,037	8,837,214
未払受託者報酬	42,148	32,913
未払委託者報酬	738,296	576,590
その他未払費用	176,161	150,045
流動負債合計	1,776,642	9,596,762
負債合計	1,776,642	9,596,762
純資産の部		
元本等		
元本	423,728,517	233,259,026
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金()	42,458,680	21,248,676
(分配準備積立金)	1,093,209	520,774
元本等合計	381,269,837	212,010,350
純資産合計	381,269,837	212,010,350
負債純資産合計	383,046,479	221,607,112

（２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第 3 期中間計算期間 自 2022年 8 月31日 至 2023年 2 月28日	第 4 期中間計算期間 自 2023年 8 月31日 至 2024年 2 月29日
営業収益		
有価証券売買等損益	9,763,397	319,718
為替差損益	3,082	6,636
営業収益合計	9,766,479	313,082
営業費用		
受託者報酬	30,406	32,913
委託者報酬	532,986	576,590
その他費用	148,904	159,792
営業費用合計	712,296	769,295
営業利益又は営業損失（ ）	10,478,775	1,082,377
経常利益又は経常損失（ ）	10,478,775	1,082,377
中間純利益又は中間純損失（ ）	10,478,775	1,082,377
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	2,595,748	3,824,698
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	37,038,168	42,458,680
剰余金増加額又は欠損金減少額	10,609,718	24,273,550
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	10,609,718	24,273,550
剰余金減少額又は欠損金増加額	24,316,325	5,805,867
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	24,316,325	5,805,867
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	58,627,802	21,248,676

（３）【中間注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所又は店頭市場における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	為替予約取引 為替予約の評価は、原則として、わが国における中間計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。

（中間貸借対照表に関する注記）

項目	第3期計算期間 2023年8月30日現在	第4期中間計算期間 2024年2月29日現在
1. 元本の推移		
期首元本額	328,129,924 円	423,728,517 円
期中追加設定元本額	270,842,063 円	47,877,985 円
期中一部解約元本額	175,243,470 円	238,347,476 円
2. 受益権の総数	423,728,517 口	233,259,026 口
3. 元本の欠損 純資産額が元本総額を下回っている場合におけるその差額	42,458,680 円	21,248,676 円
4. 1口当たり純資産額	0.8998 円	0.9089 円

（中間損益及び剰余金計算書に関する注記）

該当事項はありません。

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

1．中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	中間貸借対照表計上額は中間計算期末の時価で計上しているため、その差額はありません。
2．時価の算定方法	（１）有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 （２）上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3．金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（デリバティブ取引に関する注記）

該当事項はありません。

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

【フィデリティ・世界リート・ファンド(ファンドラップ専用)】

(1) 【中間貸借対照表】

(単位:円)

	第3期計算期間 2023年8月30日現在	第4期中間計算期間 2024年2月29日現在
資産の部		
流動資産		
金銭信託	44,354	559,547
親投資信託受益証券	168,256,346	112,578,357
派生商品評価勘定	86,569	-
未収入金	7,661,537	4,056,044
流動資産合計	176,048,806	117,193,948
資産合計	176,048,806	117,193,948
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	545,269	511,159
未払金	6,634,671	17,022
未払解約金	327,742	3,929,150
未払受託者報酬	17,919	16,143
未払委託者報酬	655,700	590,863
その他未払費用	81,608	73,548
流動負債合計	8,262,909	5,137,885
負債合計	8,262,909	5,137,885
純資産の部		
元本等		
元本	168,613,795	115,829,222
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金()	827,898	3,773,159
(分配準備積立金)	10,055,082	5,711,419
元本等合計	167,785,897	112,056,063
純資産合計	167,785,897	112,056,063
負債純資産合計	176,048,806	117,193,948

（２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第 3 期中間計算期間 自 2022年 8 月31日 至 2023年 2 月28日	第 4 期中間計算期間 自 2023年 8 月31日 至 2024年 2 月29日
営業収益		
有価証券売買等損益	11,044,428	6,521,595
為替差損益	2,606,758	7,818,503
営業収益合計	13,651,186	1,296,908
営業費用		
受託者報酬	14,691	16,143
委託者報酬	537,776	590,863
その他費用	72,928	79,586
営業費用合計	625,395	686,592
営業利益又は営業損失（ ）	14,276,581	1,983,500
経常利益又は経常損失（ ）	14,276,581	1,983,500
中間純利益又は中間純損失（ ）	14,276,581	1,983,500
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	771,292	702,790
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	16,435,906	827,898
剰余金増加額又は欠損金減少額	2,494,915	690,847
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	690,847
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	2,494,915	-
剰余金減少額又は欠損金増加額	1,100,694	949,818
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	1,100,694	-
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	949,818
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	4,324,838	3,773,159

（３）【中間注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1．有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2．デリバティブの評価基準及び評価方法	為替予約取引 為替予約の評価は、原則として、わが国における中間計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。

（中間貸借対照表に関する注記）

項 目	第 3 期計算期間 2023年 8 月30日現在	第 4 期中間計算期間 2024年 2 月29日現在
1．元本の推移		
期首元本額	105,948,620 円	168,613,795 円
期中追加設定元本額	90,473,334 円	27,763,476 円
期中一部解約元本額	27,808,159 円	80,548,049 円
2．受益権の総数	168,613,795 口	115,829,222 口
3．元本の欠損 純資産額が元本総額を下回っている場合におけるその差額	827,898 円	3,773,159 円
4．1口当たり純資産額	0.9951 円	0.9674 円

（中間損益及び剰余金計算書に関する注記）

第 3 期中間計算期間 自 2022年 8 月31日 至 2023年 2 月28日	第 4 期中間計算期間 自 2023年 8 月31日 至 2024年 2 月29日
信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要する費用として、委託者報酬の中から支弁している額 純資産総額に対して年率0.32%以内の額	信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要する費用として、委託者報酬の中から支弁している額 同左

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

1. 中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	中間貸借対照表計上額は中間計算期末の時価で計上しているため、その差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 (2) デリバティブ取引 「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) 上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。 また、デリバティブ取引に関する契約額等はいくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

通貨関連

種類	第3期計算期間 2023年8月30日 現在			第4期中間計算期間 2024年2月29日 現在				
	契約額等 (円)	うち 1年超	時価 (円)	評価損益 (円)	契約額等 (円)	うち 1年超	時価 (円)	評価損益 (円)
	市場取引以外の取引							
為替予約取引								
売建	161,440,743	-	161,899,443	458,700	107,689,250	-	108,200,409	511,159
アメリカ・ドル	130,925,667	-	131,403,401	477,734	85,408,337	-	85,780,463	372,126
イギリス・ポンド	20,082,871	-	19,999,256	83,615	15,015,891	-	15,120,704	104,813
シンガポール・ドル	5,157,704	-	5,194,899	37,195	3,626,999	-	3,638,058	11,059
ユーロ	5,274,501	-	5,301,887	27,386	3,638,023	-	3,661,184	23,161
合計	161,440,743	-	161,899,443	458,700	107,689,250	-	108,200,409	511,159

（注1）時価の算定方法

1. 対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については以下のように評価しております。

（1）予約為替の受渡し日（以下「当該日」という。）の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該予約為替は当該対顧客先物相場の仲値により評価しております。

（2）当該日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

当該日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに算出したレートにより評価しております。

当該日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物相場の仲値により評価しております。

2. 対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、対顧客相場の仲値により評価しております。

（注2）デリバティブ取引にヘッジ会計は適用されておりません。

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

（参考情報）

フィデリティ・世界リート・ファンド（ファンドラップ専用）は、「フィデリティ・グローバル・リート・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、中間貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同親投資信託の受益証券です。

なお、同親投資信託の状況は以下のとおりです。

「フィデリティ・グローバル・リート・マザーファンド」の状況

なお、以下に記載した情報は監査対象外であります。

（1）貸借対照表

区 分	2023年 8月30日現在	2024年 2月29日現在
	金額(円)	金額(円)
資産の部		
流動資産		
預金	190,791,426	181,850,005
金銭信託	770,527	350,703
投資証券	5,074,104,187	5,077,126,994
派生商品評価勘定	253	1,790
未収入金	965,471	747,650
未収配当金	11,618,255	13,841,218
流動資産合計	5,278,250,119	5,273,918,360
資産合計	5,278,250,119	5,273,918,360
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	7,663	8,133
未払解約金	7,646,937	4,056,044
その他未払費用	31	333
流動負債合計	7,654,631	4,064,510
負債合計	7,654,631	4,064,510
純資産の部		
元本等		
元本	2,351,927,899	2,251,110,010
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	2,918,667,589	3,018,743,840
元本等合計	5,270,595,488	5,269,853,850
純資産合計	5,270,595,488	5,269,853,850
負債純資産合計	5,278,250,119	5,273,918,360

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所又は店頭市場における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	為替予約取引 為替予約の評価は、原則として、わが国における計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。

（貸借対照表に関する注記）

項 目	2023年 8 月30日現在	2024年 2 月29日現在
1. 元本の推移		
期首元本額	2,268,530,272 円	2,351,927,899 円
期中追加設定元本額	120,375,678 円	53,630,412 円
期中一部解約元本額	36,978,051 円	154,448,301 円
2. 期末元本額及びその内訳		
フィデリティ・世界インカム株式・ファンド（毎月決算型）	54,750,532 円	49,801,554 円
フィデリティ・世界インカム株式・ファンド（資産成長型）	19,463,404 円	19,037,054 円
フィデリティ・世界3資産・ファンド（毎月決算型）	1,200,121,135 円	1,191,598,390 円
フィデリティ・世界分散・ファンド（債券重視型）	447,920,321 円	426,832,826 円
フィデリティ・世界分散・ファンド（株式重視型）	328,471,408 円	314,854,008 円
フィデリティ・資産分散投信（安定型）	26,586,695 円	24,226,185 円
フィデリティ・資産分散投信（成長型）	199,533,482 円	176,670,135 円
フィデリティ・世界リート・ファンド（ファンドラップ専用）	75,080,922 円	48,089,858 円
計	2,351,927,899 円	2,251,110,010 円
3. 受益権の総数	2,351,927,899 口	2,251,110,010 口
4. 1口当たり純資産額	2.2410 円	2.3410 円

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

1．貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。
2．時価の算定方法	<p>（１）有価証券 売買目的有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。</p> <p>（２）デリバティブ取引 「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p> <p>（３）上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p>
3．金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>また、デリバティブ取引に関する契約額等はいくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。</p>

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

通貨関連

種類	2023年8月30日 現在				2024年2月29日 現在			
	契約額等 （円）	うち 1 年 超	時価 （円）	評価損益 （円）	契約額等 （円）	うち 1 年 超	時価 （円）	評価損益 （円）
市場取引以外の取引								
為替予約取引								
売建	6,876,411	-	6,883,821	7,410	4,056,044	-	4,064,177	8,133
アメリカ・ドル	6,876,411	-	6,883,821	7,410	4,056,044	-	4,064,177	8,133
買建	-	-	-	-	350,703	-	352,493	1,790
アメリカ・ドル	-	-	-	-	350,703	-	352,493	1,790
合計	6,876,411	-	6,883,821	7,410	4,406,747	-	4,416,670	6,343

（注1）時価の算定方法

1．対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については以下のように評価しております。

（1）予約為替の受渡し日（以下「当該日」という。）の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該予約為替は当該対顧客先物相場の仲値により評価しております。

（2）当該日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

当該日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに算出したレートにより評価しております。

当該日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物相場の仲値により評価しております。

2．対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、対顧客相場の仲値により評価しております。

（注2）デリバティブ取引にヘッジ会計は適用されておりません。

（重要な後発事象に関する注記）

該当事項はありません。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

原届出書「第二部 ファンド情報 第3 ファンドの経理状況 2 ファンドの現況 純資産額計算書」につきましては、以下の記載内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

フィデリティ・日本株式・ファンド（ファンドラップ専用）

（2024年3月29日現在）

種 類	金 額	単 位
資産総額	162,091,689	円
負債総額	4,052,143	円
純資産総額（ - ）	158,039,546	円
発行済数量	110,076,660	口
1 単位当たり純資産額（ / ）	1.4357	円

フィデリティ・欧州株式・ファンド（ファンドラップ専用）

（2024年3月29日現在）

種 類	金 額	単 位
資産総額	126,639,930	円
負債総額	2,551,045	円
純資産総額（ - ）	124,088,885	円
発行済数量	90,747,615	口
1 単位当たり純資産額（ / ）	1.3674	円

フィデリティ・北米株式・ファンド（ファンドラップ専用）

（2024年3月29日現在）

種 類	金 額	単 位
資産総額	1,137,799,301	円
負債総額	32,775,160	円
純資産総額（ - ）	1,105,024,141	円
発行済数量	845,539,893	口
1 単位当たり純資産額（ / ）	1.3069	円

フィデリティ・英国株式・ファンド(ファンドラップ専用)

(2024年3月29日現在)

種 類	金 額	単 位
資産総額	109,001,760	円
負債総額	3,398,982	円
純資産総額(-)	105,602,778	円
発行済数量	88,119,105	口
1単位当たり純資産額(/)	1.1984	円

フィデリティ・世界総合債券・ファンド(ファンドラップ専用)

(2024年3月29日現在)

種 類	金 額	単 位
資産総額	534,081,758	円
負債総額	18,452,457	円
純資産総額(-)	515,629,301	円
発行済数量	617,943,991	口
1単位当たり純資産額(/)	0.8344	円

フィデリティ・世界ハイ・イールド債券・ファンド(ファンドラップ専用)

(2024年3月29日現在)

種 類	金 額	単 位
資産総額	486,373,677	円
負債総額	14,368,097	円
純資産総額(-)	472,005,580	円
発行済数量	542,004,211	口
1単位当たり純資産額(/)	0.8709	円

フィデリティ・アジア・パシフィック株式・ファンド(ファンドラップ専用)

(2024年3月29日現在)

種 類	金 額	単 位
資産総額	22,758,932	円
負債総額	9,072	円
純資産総額(-)	22,749,860	円
発行済数量	26,013,000	口
1単位当たり純資産額(/)	0.8746	円

フィデリティ・オルタナティブ株式・ファンド(ファンドラップ専用)

(2024年3月29日現在)

種 類	金 額	単 位
資産総額	183,083,970	円
負債総額	4,683,977	円
純資産総額(-)	178,399,993	円
発行済数量	200,391,873	口
1単位当たり純資産額(/)	0.8903	円

フィデリティ・世界新興国株式・ファンド(ファンドラップ専用)

(2024年3月29日現在)

種 類	金 額	単 位
資産総額	205,669,451	円
負債総額	5,364,335	円
純資産総額(-)	200,305,116	円
発行済数量	214,762,836	口
1単位当たり純資産額(/)	0.9327	円

フィデリティ・世界リート・ファンド(ファンドラップ専用)

(2024年3月29日現在)

種 類	金 額	単 位
資産総額	113,482,965	円
負債総額	4,128,787	円
純資産総額(-)	109,354,178	円
発行済数量	109,458,775	口
1単位当たり純資産額(/)	0.9990	円

(参考)マザーファンドの純資産額計算書

フィデリティ・グローバル・リート・マザーファンド

(2024年3月29日現在)

種 類	金 額	単 位
資産総額	4,932,725,730	円
負債総額	2,327,832	円
純資産総額(-)	4,930,397,898	円
発行済数量	2,020,011,912	口
1単位当たり純資産額(/)	2.4408	円

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

<訂正前>

(1) 資本金等（2023年9月末日現在）

（略）

<訂正後>

(1) 資本金等（2024年3月末日現在）

（略）

2【事業の内容及び営業の概況】

< 訂正前 >

（略）

2023年9月29日現在、委託会社の運用する証券投資信託は、追加型株式投資信託186本、単位型株式投資信託4本、親投資信託49本で、親投資信託を除いた純資産の合計は総額4,879,320,779,245円です。

< 訂正後 >

（略）

2024年3月29日現在、委託会社の運用する証券投資信託は、追加型株式投資信託189本、単位型株式投資信託2本、親投資信託52本で、親投資信託を除いた純資産の合計は総額5,818,420,739,961円です。

3【委託会社等の経理状況】

原届出書「第三部 委託会社等の情報 第1 委託会社等の概況 3 委託会社等の経理状況」につきましては、以下の記載内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。

当社の財務諸表は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第38期事業年度(2023年1月1日から2023年12月31日まで)の財務諸表について、PwC Japan有限責任監査法人により監査を受けております。

財務諸表の金額については、千円未満の端数を切り捨てて記載しております。

当社は財務諸表の適正性を確保するための特段の取り組みを行っております。具体的には、企業会計基準及び同適用指針、日本公認会計士協会が公表する委員会報告等の公開情報、各種関係諸法令の改廃に応じて、当社として必要な対応を適時に協議しております。

(1) 【貸借対照表】

(単位：千円)

	第37期 (2022年12月31日)	第38期 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,022,979	2,269,485
立替金	62,774	59,949
前払費用	355,433	460,082
未収委託者報酬	7,302,518	9,026,865
未収運用受託報酬	1,270,509	5,354,461
未収収益	6,568	5,845
未収入金	* 1 279,442	152,986
流動資産計	12,300,226	17,329,675
固定資産		
無形固定資産		
電話加入権	7,487	7,487
無形固定資産合計	7,487	7,487
投資その他の資産		
長期貸付金	* 1 5,754,864	5,953,460
長期差入保証金	11,755	11,755
繰延税金資産	371,268	288,014
その他	230	230
投資その他の資産合計	6,138,118	6,253,460
固定資産計	6,145,605	6,260,947
資産合計	18,445,832	23,590,622
負債の部		
流動負債		
預り金	158	7
未払金		
未払手数料	3,386,058	4,192,323
その他未払金	* 1 3,949,135	2,192,059
未払費用	1,205,608	3,445,819
未払法人税等	256,966	1,616,600
未払消費税等	678,471	1,176,325
賞与引当金	755,779	376,001
流動負債合計	10,232,176	12,999,137
固定負債		
長期賞与引当金	8,295	-
退職給付引当金	1,907,940	2,028,331
固定負債合計	1,916,235	2,028,331
負債合計	12,148,412	15,027,469
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
利益剰余金		
利益準備金	250,000	250,000
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	5,047,420	7,313,153
利益剰余金合計	5,297,420	7,563,153
株主資本合計	6,297,420	8,563,153
純資産合計	6,297,420	8,563,153
負債・純資産合計	18,445,832	23,590,622

（２）【損益計算書】

	(単位：千円)	
	第37期 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	第38期 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
営業収益		
委託者報酬	48,219,377	55,200,925
運用受託報酬	7,978,913	10,031,924
その他営業収益	196,056	153,966
営業収益計	56,394,346	65,386,816
営業費用	* 1	
支払手数料	21,912,619	25,160,937
広告宣伝費	270,363	282,742
調査費		
調査費	563,944	551,589
委託調査費	13,400,947	15,194,030
営業雑経費		
通信費	78,488	139,609
印刷費	55,842	47,328
協会費	22,224	27,212
その他	1,512	2,007
営業費用計	36,305,942	41,405,457
一般管理費		
給料		
給料・手当	2,641,460	2,762,834
賞与	1,673,842	1,333,847
福利厚生費	525,602	575,347
交際費	13,087	17,945
旅費交通費	70,519	108,866
租税公課	162,863	205,434
弁護士報酬	2,415	2,569
不動産賃貸料・共益費	412,937	427,958
退職給付費用	208,922	272,377
消耗器具備品費	3,219	17,110
事務委託費	6,759,389	7,249,585
諸経費	303,872	288,510
一般管理費計	12,778,130	13,262,388
営業利益	7,310,273	10,718,971
営業外収益		
受取利息	* 1	16,559
保険配当金	9,662	10,648
雑益	3,309	108
営業外収益計	29,116	27,315
営業外費用		
寄付金	2,930	1,500
為替差損	233,624	112,525
雑損	109	306
営業外費用計	236,664	114,331
経常利益	7,102,725	10,631,955
特別利益		
特別退職金戻入額	17,315	-
特別利益計	17,315	-
特別損失		
特別退職金	4,125	52,541
事務過誤損失	105	-
特別損失計	4,230	52,541
税引前当期純利益	7,115,810	10,579,414
法人税、住民税及び事業税	2,220,713	3,230,427
法人税等調整額	(152,321)	83,253
法人税等合計	2,068,392	3,313,680
当期純利益	5,047,418	7,265,733

（３）【株主資本等変動計算書】

第37期（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本					純資産合計
	資本金	利益剰余金			株主資本合計	
		利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	1,000,000	250,000	3,231,341	3,481,341	4,481,341	4,481,341
当期変動額						
剰余金の配当	-	-	(3,231,340)	(3,231,340)	(3,231,340)	(3,231,340)
当期純利益	-	-	5,047,418	5,047,418	5,047,418	5,047,418
当期変動額合計	-	-	1,816,078	1,816,078	1,816,078	1,816,078
当期末残高	1,000,000	250,000	5,047,420	5,297,420	6,297,420	6,297,420

第38期（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本					純資産合計
	資本金	利益剰余金			株主資本合計	
		利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	1,000,000	250,000	5,047,420	5,297,420	6,297,420	6,297,420
当期変動額						
剰余金の配当	-	-	(5,000,000)	(5,000,000)	(5,000,000)	(5,000,000)
当期純利益	-	-	7,265,733	7,265,733	7,265,733	7,265,733
当期変動額合計	-	-	2,265,733	2,265,733	2,265,733	2,265,733
当期末残高	1,000,000	250,000	7,313,153	7,563,153	8,563,153	8,563,153

注記事項

(重要な会計方針)

1. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、賞与支給見込額の当期負担額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき当期末において発生していると認められる額を計上しております。退職給付見込額を当期までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による按分額を定額法により費用処理しております。数理計算上の差異については、発生年度に全額費用処理しております。

2. 収益及び費用の計上基準

当社は、顧客への投資運用業に関するサービスから生じる委託者報酬、運用受託報酬等により収益を獲得しております。

これらには実績報酬が含まれる場合があります。

(1) 運用報酬

投資運用サービスのうち運用資産残高等を基礎として算定される報酬（運用報酬）については、一定の期間にわたり履行義務を充足し収益として認識しております。確定した報酬を月次、年4回、年2回もしくは年1回受け取ります。

(2) 実績報酬

実績報酬は、変動対価の額に関する不確実性が事後的に解消される際に、解消される時点までに計上された収益の著しい減額が発生しない可能性が高い部分に限り取引価格に含めております。確定した報酬は、履行義務充足時点から短期間で支払いを受けます。

3. その他財務諸表作成のための基礎となる事項

(1) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理していません。

(2) グループ通算制度の適用

グループ通算制度を適用しております。

(重要な会計上の見積り)

第37期(自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

当事業年度の財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが翌事業年度の財務諸表に影響を及ぼすリスクを識別していないため、注記を省略しております。

第38期(自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)

当事業年度の財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが翌事業年度の財務諸表に影響を及ぼすリスクを識別していないため、注記を省略しております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(貸借対照表関係)

*1 関係会社に対する資産及び負債は次のとおりであります。

	第37期 (2022年12月31日)	第38期 (2023年12月31日)
未収入金	2,693 千円	4,375 千円
その他未払金	3,683,257 千円	1,487,550 千円
長期貸付金	5,553,660 千円	5,943,660 千円

(損益計算書関係)

*1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	第37期 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	第38期 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
営業費用	17,246,408 千円	19,338,423 千円
受取利息	8,825 千円	12,877 千円

(株主資本等変動計算書関係)

第37期 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数	当事業年度増加 株式数	当事業年度減少 株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	20,000 株	-	-	20,000 株
合計	20,000 株	-	-	20,000 株

2. 配当に関する事項

金銭による配当

該当事項はありません。

金銭以外による配当

2022年12月13日の取締役会において、次のとおり決議しております。

- (1) 配当財産の種類 長期貸付金
- (2) 配当財産の帳簿価格 3,231,340 千円
- (3) 1株当たりの配当額 161 千円
- (4) 基準日 2022年12月13日
- (5) 効力発生日 2022年12月13日

第38期 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数	当事業年度増加 株式数	当事業年度減少 株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	20,000 株	-	-	20,000 株
合計	20,000 株	-	-	20,000 株

2. 配当に関する事項

金銭による配当

該当事項はありません。

金銭以外による配当

2023年12月12日の取締役会において、次のとおり決議しております。

- (1) 配当財産の種類 長期貸付金
- (2) 配当財産の帳簿価格 5,000,000 千円
- (3) 1株当たりの配当額 250 千円
- (4) 基準日 2023年12月12日
- (5) 効力発生日 2023年12月12日

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用について短期的な預金及びグループ会社への貸付金に限定しております。
また、所要資金は自己資金で賄っており、銀行借入、社債発行等による資金調達は行っていません。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

預金は、銀行の信用リスクに晒されておりますが、預金に関しては数行に分散して預入しており、リスクの軽減を図っております。営業債権である未収委託者報酬および未収運用受託報酬、未収収益、未収入金についてはそれらの源泉である預り純資産を数行の信託銀行に分散して委託しておりますが、信託銀行はその受託資産を自己勘定と分別して管理しているため、仮に信託銀行が破綻又は債務不履行等となった場合でも、これら営業債権が信用リスクに晒されることは無いと考えております。未収入金及びその他未払金の一部には、海外の関連会社との取引により生じた外貨建ての資産・負債を保有しているため、為替相場の変動による市場リスクに晒されております。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

預金に係る銀行の信用リスクに関しては、口座開設時及びその後も継続的に銀行の信用力を評価し、格付けの高い金融機関でのみで運用し、預金に係る信用リスクを管理しております。

未収委託者報酬および未収運用受託報酬は、投資信託または取引相手ごとに残高を管理し、当社が運用している資産の中から報酬を徴収するため、信用リスクは僅少であります。

また、未収入金は、概ね、海外の関連会社との取引により生じたものであり、原則、翌月中に決済が行われる事により、回収が不能となるリスクは僅少であります。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、原則、為替変動や価格変動に係るリスクに対して、ヘッジ取引を行っておりません。外貨建ての営業債権債務について、月次ベースで為替変動リスクを測定し、モニタリングを実施しております。

また、外貨建ての債権債務に関する為替の変動リスクに関しては、個別の案件ごとに毎月残高照合等を行い、リスクを管理しております。

流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、日々資金残高管理を行っております。また、適時に資金繰予定表を作成・更新するとともに、手許流動性(最低限必要な運転資金)を状況に応じて見直し・維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2022年12月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

第37期（2022年12月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 長期貸付金	5,754,864	5,754,864	-
資産計	5,754,864	5,754,864	-

(注1) 資産

現金及び預金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未収収益、未収入金

これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

負債

未払手数料、その他未払金、未払費用、未払法人税等、未払消費税等

これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注2) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

金銭債権のうち長期貸付金(5,754,864千円)については、契約上返済期限の定めがないため、記載を省略しております。

2023年12月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

第38期（2023年12月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 長期貸付金	5,953,460	5,953,460	-
資産計	5,953,460	5,953,460	-

(注1) 資産

現金及び預金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未収収益、未収入金

これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

負債

未払手数料、その他未払金、未払費用、未払法人税等、未払消費税等

これらは短期間で決済され、時価は帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注2) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

金銭債権のうち長期貸付金(5,953,460千円)については、契約上返済期限の定めがないため、記載を省略しております。

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

第37期（2022年12月31日）

(1)時価で貸借対照表に計上している金融商品

該当事項はありません。

(2)時価で貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

区分	時価			
	レベル1 (千円)	レベル2 (千円)	レベル3 (千円)	合計 (千円)
(1) 長期貸付金	-	5,754,864	-	5,754,864
資産計	-	5,754,864	-	5,754,864

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

(1) 長期貸付金

変動金利によるものであり、短期間で市場金利を反映するため、貸付先の信用状態が実行後大きく異なっていない場合は時価と帳簿価額が近似していることから、帳簿価額を時価としており、レベル2の時価に分類しております。

第38期（2023年12月31日）

(1)時価で貸借対照表に計上している金融商品

該当事項はありません。

(2)時価で貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

区分	時価			
	レベル1 (千円)	レベル2 (千円)	レベル3 (千円)	合計 (千円)
(1) 長期貸付金	-	5,953,460	-	5,953,460
資産計	-	5,953,460	-	5,953,460

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

(1) 長期貸付金

変動金利によるものであり、短期間で市場金利を反映するため、貸付先の信用状態が実行後大きく異なっていない場合は時価と帳簿価額が近似していることから、帳簿価額を時価としており、レベル2の時価に分類しております。

(退職給付関係)

第37期（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は確定給付型年金制度及び確定拠出型年金制度を採用しております。

2. 確定給付型年金制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	(千円)
退職給付債務の期首残高	1,995,588
勤務費用	174,611
利息費用	10,753
数理計算上の差異の発生額	45,265
退職給付の支払額	228,588
退職給付債務の期末残高	1,907,099

(2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

	(千円)
非積立型制度の退職給付債務	1,907,099
未認識過去勤務費用	841
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,907,940

退職給付引当金	1,907,940
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,907,940

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(千円)
勤務費用	150,582
利息費用	9,273
数理計算上の差異の費用処理額	45,265
過去勤務債務の費用処理額	1,874
確定給付型年金制度に係る退職給付費用	112,715

(4) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率 1.4%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は96,206千円であります。

第38期（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は確定給付型年金制度及び確定拠出型年金制度を採用しております。

2. 確定給付型年金制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	（千円）
退職給付債務の期首残高	1,907,099
勤務費用	178,071
利息費用	24,955
数理計算上の差異の発生額	5,376
退職給付の支払額	76,418
退職給付債務の期末残高	2,028,331

(2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

	（千円）
非積立型制度の退職給付債務	2,028,331
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,028,331
退職給付引当金	2,028,331
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,028,331

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	（千円）
勤務費用	157,671
利息費用	22,096
数理計算上の差異の費用処理額	5,376
過去勤務債務の費用処理額	841
確定給付型年金制度に係る退職給付費用	173,550

(4) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率 1.7%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は98,827千円であります。

(税効果会計関係)

1. 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社は、当事業年度から、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

2. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第37期	第38期
	(2022年12月31日)	(2023年12月31日)
	(千円)	(千円)
繰延税金資産		
未払費用	91,806	89,646
賞与引当金	231,419	115,131
退職給付引当金	584,211	621,075
資産除去債務	1,644	1,644
その他	87,153	125,470
繰延税金資産小計	996,233	952,966
評価性引当額	624,965	664,952
繰延税金資産合計	371,268	288,014
繰延税金資産又は繰延税金負債()の純額	371,268	288,014

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	第37期	第38期
	(2022年12月31日)	(2023年12月31日)
法定実効税率	30.62%	30.62%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.38%	0.33%
評価性引当額	2.19%	2.62%
過年度法人税等	0.23%	2.25%
その他	0.02%	0.01%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.07%	31.32%

(資産除去債務関係)

当社は建物所有者との間で事業用不動産賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了時に原状回復する義務を有しているため、契約及び法令上の資産除去債務を認識しております。なお、当該賃貸借契約に関連する長期差入保証金(敷金)が計上されているため、資産除去債務の負債計上に代えて、当該敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、直接減額しております。

(収益認識関係)

第37期（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位:千円)

	運用報酬	実績報酬	合計
委託者報酬	48,219,377	-	48,219,377
運用受託報酬	3,116,449	4,862,463	7,978,913
その他営業収益	196,056	-	196,056
合計	51,531,882	4,862,463	56,394,346

第38期（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位:千円)

	運用報酬	実績報酬	合計
委託者報酬	55,200,925	-	55,200,925
運用受託報酬	3,047,735	6,984,189	10,031,924
その他営業収益	153,966	-	153,966
合計	58,402,627	6,984,189	65,386,816

2. 収益を理解するための基礎となる情報

第37期（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）及び 第38期（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

注記事項(重要な会計方針)の2. 収益及び費用の計上基準に記載の通りであります。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から翌事業年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

第37期（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

顧客との契約から生じた債権等

(単位:千円)

	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	7,035,957	8,573,027

(注)なお、当事業年度の期首および期末において、顧客との契約から生じた契約資産はありません。

第38期（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

顧客との契約から生じた債権等

(単位:千円)

	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	8,573,027	14,381,326

(注)なお、当事業年度の期首および期末において、顧客との契約から生じた契約資産はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

第37期（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）及び 第38期（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

当社は資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

第37期（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

1. サービスごとの情報

(単位:千円)

	投資信託の運用	投資顧問業	その他	合計
外部顧客への売上高	48,219,377	7,978,913	196,056	56,394,346

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(1) 委託者報酬

(単位:千円)

投資信託の名称	委託者報酬	関連するセグメント名
フィデリティ・US リート・ファンドB（為替ヘッジなし）	9,173,768	資産運用業
フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド	7,286,922	資産運用業
フィデリティ・日本成長株・ファンド	6,452,328	資産運用業

(2) 運用受託報酬

運用受託報酬については、顧客との守秘義務契約により、開示ができないため、記載を省略しております。

第38期（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

1. サービスごとの情報

(単位:千円)

	投資信託の運用	投資顧問業	その他	合計
外部顧客への売上高	55,200,925	10,031,924	153,966	65,386,816

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(1) 委託者報酬

(単位:千円)

投資信託の名称	委託者報酬	関連するセグメント名
フィデリティ・US リート・ファンドB（為替ヘッジなし）	8,824,933	資産運用業
フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド	8,558,231	資産運用業
フィデリティ・世界割安成長株投信 Bコース（為替ヘッジなし）	7,353,735	資産運用業
フィデリティ・日本成長株・ファンド	6,925,937	資産運用業

(2) 運用受託報酬

運用受託報酬については、顧客との守秘義務契約により、開示ができないため、記載を省略しております。

(関連当事者情報)

第37期（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

1. 関連当事者との取引

(1)財務諸表提出会社の親会社

種類	会社等の名称	会社等の所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（注2）	科目	期末残高（注2）
親会社	FIL Limited	英領バミューダ、ペンブローック市	千米ドル 6,825	投資顧問業	被所有間接100%	投資顧問契約の再委任等役員の兼任	委託調査等報酬（注3） 共通発生経費負担額（注4）	千円 - 12,450,274	未収入金 未払金	千円 2,693 767,387
親会社	フィデリティ・ジャパン・ホールディングス株式会社	東京都港区	千円 4,510,000	グループ会社経営管理	被所有直接100%	当社事業活動の管理等役員の兼任	金銭の貸付（注1） 利息の受取（注1） 共通発生経費負担額（注4） 連結法人税の個別帰属額 剰余金の配当	千円 2,208,660 8,825 256,643 - 3,231,340	長期貸付金 未収入金 未払金 未払金 未払金	千円 5,553,660 - 46,250 1,788,272 -
親会社	FIL Asia Holdings Pte Limited	シンガポール、ブルバード市	千米ドル 189,735	グループ会社経営管理	被所有間接100%	営業取引	共通発生経費負担額（注4）	千円 4,539,490	未払金	千円 1,081,346

(2)財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社

属性	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（注2）	科目	期末残高（注2）
同一の親会社をもつ会社	フィデリティ証券株式会社	東京都港区	千円 11,757,500	証券業	なし	当社設定投資信託の募集・販売	共通発生経費負担額（注4） 投資信託販売に係る代行手数料（注5）	千円 391,995 800,707	未収入金 未払金	千円 52,615 67,683

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注1) 資金の貸付については、市場金利等を勘案して利率を合理的に決定しております。
- (注2) 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。
- (注3) 当社の主要な事業領域である投信・投資顧問業から包括的に発生する収益であります。
- (注4) 共通発生経費については、直課可能なものは実際発生額に基づき、直課不可能なものは各社の規模に応じた一定の比率により負担しております。
- (注5) 代行手数料については、一般取引条件を基に、両社協議の上合理的に決定しております。

2. 親会社に関する注記

- ・FIL Limited（非上場）
- ・FIL Asia Holdings Pte Limited（非上場）
- ・FIL Japan Holdings (Singapore) Pte Limited（非上場）
- ・フィデリティ・ジャパン・ホールディングス株式会社（非上場）

第38期（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

1. 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社

種類	会社等の名称	会社等の所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（注2）	科目	期末残高（注2）
親会社	FIL Limited	英領バミューダ、ペンブローック市	千米ドル 6,825	投資顧問業	被所有間接100%	投資顧問契約の再委任等役員の兼任	委託調査等報酬（注3） 共通発生経費負担額（注4）	千円 - 14,263,790	未収入金 未払金	千円 4,375 900,697
親会社	フィデリティ・ジャパン・ホールディングス株式会社	東京都港区	千円 4,510,000	グループ会社経営管理	被所有直接100%	当社事業活動の管理等役員の兼任	金銭の貸付（注1） 利息の受取（注1） 共通発生経費負担額（注4） グループ通算制度の通算税効果額 剰余金の配当	千円 390,000 12,877 258,088 - 5,000,000	長期貸付金 未収入金 未払金 未払金 未払金	千円 5,943,660 - 47,052 46,398 -
親会社	FIL Asia Holdings Pte Limited	シンガポール、ブルバード市	千米ドル 189,735	グループ会社経営管理	被所有間接100%	営業取引	共通発生経費負担額（注4）	千円 4,816,544	未払金	千円 493,401

(2)財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社

属性	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（注2）	科目	期末残高（注2）
			千円					千円		千円
同一の親会社をもつ会社	フィデリティ証券株式会社	東京都港区	12,657,500	証券業	なし	当社設定投資信託の募集・販売	共通発生経費負担額（注4）	357,778	未収入金	115,231
							投資信託販売に係る代行手数料（注5）	813,267	未払金	72,123
							グループ通算制度の通算税効果額	-	未払金	478,598

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 資金の貸付については、市場金利等を勘案して利率を合理的に決定しております。

(注2) 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

(注3) 当社の主要な事業領域である投信・投資顧問業から包括的に発生する収益であります。

(注4) 共通発生経費については、直課可能なものは実際発生額に基づき、直課不可能なものは各社の規模に応じた一定の比率により負担しております。

(注5) 代行手数料については、一般取引条件を基に、両社協議の上合理的に決定しております。

2. 親会社に関する注記

- ・FIL Limited（非上場）
- ・FIL Asia Holdings Pte Limited（非上場）
- ・FIL Japan Holdings (Singapore) Pte Limited（非上場）
- ・フィデリティ・ジャパン・ホールディングス株式会社（非上場）

(1株当たり情報)

	第37期 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	第38期 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
1株当たり純資産額	314,871円00銭	428,157円66銭
1株当たり当期純利益	252,370円92銭	363,286円66銭

なお潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり当期純損失金額又は1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	第37期 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	第38期 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
当期純利益(千円)	5,047,418	7,265,733
普通株式に係る当期純利益(千円)	5,047,418	7,265,733
期中平均株式数	20,000株	20,000株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

原届出書「第三部 委託会社等の情報 第2 その他の関係法人の概況 1 名称、資本金の額及び事業の内容」につきましては、以下の記載内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

ファンドの運営における役割	名称	資本金の額 (2023年9月末日現在)	事業の内容
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社	324,279百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。
<参考情報> 再信託受託会社	日本マスタートラスト信託銀行株式会社	10,000百万円	
販売会社	フィデリティ証券株式会社	12,657百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
運用の委託先	FILインベストメンツ・インターナショナル	225,365英ポンド (約40百万円 [*]) * 1英ポンド180.68円で換算 (2023年12月末日現在)	主として英国およびヨーロッパにおいて投資信託の販売および投資信託会社に対する投資運用業務を営んでいます。
	FILインベストメント・マネジメント(香港)・リミテッド	178,000,000香港ドル (約3,230百万円 [*]) * 1香港ドル18.15円で換算 (2023年12月末日現在)	主として香港においてファンドの運用、調査、販売業務を営んでいます。

2【関係業務の概要】

<訂正前>

(略)

(3) 運用の委託先：

名称	委託する業務の内容
FILインベストメンツ・インターナショナル(所在地：英国)	委託会社より運用の指図に関する権限の委託を受け、マザーファンドの運用の指図を行ないます。

<訂正後>

(略)

(3) 運用の委託先：

名称	委託する業務の内容
FILインベストメンツ・インターナショナル(所在地：英国)	委託会社より運用の指図に関する権限の委託を受け、マザーファンドの運用の指図を行ないます。
FILインベストメント・マネジメン ト(香港)・リミテッド	

独立監査人の中間監査報告書

2024年5月23日

フィデリティ投信株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山田 信之

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているフィデリティ・日本株式・ファンド（ファンドラップ専用）の2023年8月31日から2024年2月29日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、フィデリティ・日本株式・ファンド（ファンドラップ専用）の2024年2月29日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2023年8月31日から2024年2月29日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、フィデリティ投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

フィデリティ投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

2024年5月23日

フィデリティ投信株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 山田 信之
業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているフィデリティ・欧州株式・ファンド（ファンドラップ専用）の2023年8月31日から2024年2月29日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、フィデリティ・欧州株式・ファンド（ファンドラップ専用）の2024年2月29日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2023年8月31日から2024年2月29日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、フィデリティ投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

フィデリティ投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

2024年5月23日

フィデリティ投信株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山田 信之

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているフィデリティ・北米株式・ファンド（ファンドラップ専用）の2023年8月31日から2024年2月29日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、フィデリティ・北米株式・ファンド（ファンドラップ専用）の2024年2月29日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2023年8月31日から2024年2月29日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、フィデリティ投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

フィデリティ投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

2024年5月23日

フィデリティ投信株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 山田 信之
業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているフィデリティ・英国株式・ファンド（ファンドラップ専用）の2023年8月31日から2024年2月29日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、フィデリティ・英国株式・ファンド（ファンドラップ専用）の2024年2月29日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2023年8月31日から2024年2月29日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、フィデリティ投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

フィデリティ投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

2024年5月23日

フィデリティ投信株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 山田 信之
業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているフィデリティ・世界総合債券・ファンド（ファンドラップ専用）の2023年8月31日から2024年2月29日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、フィデリティ・世界総合債券・ファンド（ファンドラップ専用）の2024年2月29日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2023年8月31日から2024年2月29日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、フィデリティ投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

フィデリティ投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

2024年5月23日

フィデリティ投信株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 山田 信之
業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているフィデリティ・世界ハイ・イールド債券・ファンド（ファンドラップ専用）の2023年8月31日から2024年2月29日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、フィデリティ・世界ハイ・イールド債券・ファンド（ファンドラップ専用）の2024年2月29日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2023年8月31日から2024年2月29日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、フィデリティ投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

フィデリティ投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

2024年5月23日

フィデリティ投信株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 山田 信之
業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているフィデリティ・アジア・パシフィック株式・ファンド（ファンドラップ専用）の2023年8月31日から2024年2月29日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、フィデリティ・アジア・パシフィック株式・ファンド（ファンドラップ専用）の2024年2月29日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2023年8月31日から2024年2月29日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、フィデリティ投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

フィデリティ投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

2024年5月23日

フィデリティ投信株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 山田 信之
業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているフィデリティ・オルタナティブ株式・ファンド（ファンドラップ専用）の2023年8月31日から2024年2月29日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、フィデリティ・オルタナティブ株式・ファンド（ファンドラップ専用）の2024年2月29日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2023年8月31日から2024年2月29日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、フィデリティ投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

フィデリティ投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

2024年5月23日

フィデリティ投信株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 山田 信之
業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているフィデリティ・世界新興国株式・ファンド（ファンドラップ専用）の2023年8月31日から2024年2月29日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、フィデリティ・世界新興国株式・ファンド（ファンドラップ専用）の2024年2月29日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2023年8月31日から2024年2月29日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、フィデリティ投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

フィデリティ投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

2024年5月23日

フィデリティ投信株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 山田 信之
業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているフィデリティ・世界リート・ファンド（ファンドラップ専用）の2023年8月31日から2024年2月29日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、フィデリティ・世界リート・ファンド（ファンドラップ専用）の2024年2月29日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2023年8月31日から2024年2月29日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、フィデリティ投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

フィデリティ投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

2024年3月8日

フィデリティ投信株式会社
取締役会 御中

PwC Japan有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 平山 晃一郎
業務執行社員**監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているフィデリティ投信株式会社の2023年1月1日から2023年12月31日までの第38期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、フィデリティ投信株式会社の2023年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 財務諸表に対する意見を表明するために、財務諸表に含まれる構成単位の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、構成単位の財務情報に関する監査の指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。